JAあいち版GAP推進の手引き

Ver 1.4

制定 平成20年7月30日

改定 平成21年8月28日

改定 平成23年8月 1日

改定 平成26年2月 3日

JAあいち経済連

<目次>

1.	はしめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2.	JAあいち版GAPについて・・・・・・・2
3.	JAあいち版GAP推進の基本方針・・・・・・・・3
4.	JAにおける推進基本方針の策定・・・・・・・3
5.	JAにおける推進手順の作成・・・・・・・・・・・・・・・4
6.	JAあいち版GAP推進上の注意事項・・・・・・・5
7.	管理責任者の設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
8.	内部検査体制の整備・・・・・・・・・・・・7
9.	JAあいち版GAPチェックシートの使い方・・・・・・9
○ <i>Ŧ</i>	エックシート 様式
(D JA あいち版 GAP チェックシート(見本集)野菜・果樹
	様式集 1・・・・・・・・・・・・・・・・・1~18
(② JA あいち版 GAP チェックシート(様式集)米・麦・大豆
	様式集 2・・・・・・・・・・・・・・・1~29
○ サ	·ブシート様式 様式集 3······1~9
(米・麦・大豆GAP取組み状況報告書 入出庫・在庫管理台帳 生産履歴記帳シート 内部検査結果報告書

はじめに

食の安全・安心に対する消費者の関心が高まる中、JAグループ愛知では平成11年度より残留農薬分析、さらに平成14年度からは生産履歴記帳運動に取組み愛知県産農産物の安全・安心確保に努めてまいりました。

残留農薬分析や生産履歴記帳運動の取組みは一定の成果を収めてきましたが、農薬のドリフト、散布器具の洗浄不足、異物混入、食中毒に対する衛生管理など、それらの取組みでは回避できないリスクをどうするのかについて検討を重ねた結果、GAP手法の導入が必要との結論に至り平成20年7月に「JAあいち版GAP」を制定しました。

JAあいち版GAPは農産物の安全・安心の確保のみならず、環境保全型農業の推進や 生産コスト低減等による経営改善にもつながることを意識して制定、またJAとして取組 むべき事項を盛り込んだJA用チェックシートを用意し、集出荷場以降の管理やJAの役 割(取組む生産者に対する指導)を果たしているかの確認もできるようにしました。

さらに平成21年8月には「管理責任者の設置」と「内部検査体制の整備」を、平成23年8月には、「労働安全」の項目を手引書に加え精度の向上を図ってまいりました。

JAあいち版GAPは、平成18年3月に策定・公表されている「愛知県農産物環境安全推進マニュアル(=愛知県版GAP)」の必須項目を網羅した水準としており、産地ではJAが普及指導員と一体となり普及・推進を行った結果、平成24年11月現在、愛知県下で103産地等にGAP手法が導入されるに至りました(経済連調べ)。

そのようにかなりの産地で導入されてきたGAP手法ですが、チェックシートの配布・ 回収は行ったもののGAP手法の根幹である「PDCAサイクルを回す」ところまで至っ ていない状況も多く見受けられ、どのようにステップアップしていくかが今後の大きな課 題となっています。

国は、国内に様々なGAPが存在するため、産地での混乱が懸念されることや、食品安全に加え、環境保全や労働安全のように幅広い分野を対象とする高度な取組内容にすることを目的に「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」(以下「ガイドライン」という)を平成22年4月に公表しました(その後23年3月、6月、8月、平成24年3月に改定)。

このたび、「愛知県農産物環境安全推進マニュアル」の改正に対応するためと必要に応じて「ガイドライン」に対応できるようにJAあいち版GAP補助シートを作成しJAあいち版GAPの改定を行うこととしました。

この改定を機にガイドラインに準拠すべき項目に対しても積極的に取組んでいただき、 さらにPDCAサイクルを回すことで、より高度なGAP手法に発展することを期待しま す。

また、その取組みが消費者・実需者から評価され、ひいては生産者の経営安定や産地振興に繋がることを願うものであります。

平成26年2月 JAあいち経済連 営農総合室 室長 原 広志

2. JAあいち版GAPについて

JAあいち版GAPは平成20年7月に制定しました。JAあいち版GAPの導入目的は以下のとおりです。

- (1) J A あいち版 G A P 導入産地が提供する農産物は安全や環境に配慮して栽培した農産物であることを実需者・消費者にアピールする。
- (2) 取組む生産者にとってのメリット「生産性向上、クレームの減少、産地全体のレベルアップ、コストダウン、有利販売など」を追及する。

JAあいち版GAPは愛知県がすすめる「愛知県農産物環境安全推進マニュアル」の「環境・安全やろまいシート」の必須項目と同等の水準です。ただし、JAあいち版GAPはJAの集出荷施設での調整や輸送も含めたGAPとしています。

生産 集出荷・調整 難 グローバルGAP、JGAP 環境・安全やろまいシート(必須) JA あいち版 GAP 生産農家にメリットの多い内容にする。 場

JAあいち版GAPのイメージ

% J A あいち版 G A P でいう輸送とは、 J A グループ 愛知が関与する部分までを示す。

JAあいち版GAPチェックシートはGAP手法に取り組む産地に対し「たたき台」として提供するものであり基礎レベルを示したものです。従って具体的な取組み内容や詳細については産地で協議し、産地バージョンとして仕上げてください。産地で協議することもGAP手法導入の大きなポイントとなります。

※ 現状では認証は行いません。ただし、今後実需者から要望があれば認証制度の 制定も検討します。

3. JAあいち版GAP推進の基本方針

JAあいち版GAP推進の基本方針は以下のとおりです。

- (1) 産地で取組むことを原則とする。
- (2) 産地に対しJAと農業改良普及課が連携・協力体制を取りながら推進をはかる。
- (3) チェックシートは「果樹」「米」「麦」「大豆」「露地野菜」「施設野菜」の生産者 用シートと JA 用シートを用いる。
- (4) チェックシートはGAP手法に取組む産地に「たたき台」として提供するものである。具体的な取組み内容や詳細については産地(部会、JA、農業改良普及課等)で協議し、産地バージョンとして仕上げる。この際、実需者との協議によるバージョンアップ(認証も含む)や「ガイドライン」準拠(補助シートの追加)も選択肢として検討する。
- (5) 常にPDCAサイクルを回し、改善に努める。

JAあいち版GAPの推進はチェックシートにチェックすることを強制するようなものであってはなりません。導入にあたっては、納得して取組むことのできるまで産地で十分協議してください。

チェックシートのチェックは、はじめから完全にチェックできる必要はありません。 PDCAサイクルを回しチェックできる項目を増やすように指導してください。

4. JAにおける推進基本方針の策定

JAにおいては、JAとしての推進基本方針を策定し方針に基づく推進を行ってください。基本方針策定のポイントは以下のとおりです。

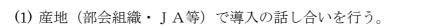
- (1) 取組みの目的を明確にする (JAあいち版GAPの導入目的を参照のこと)。
- (2) 産地での取組み対象(部会組織等)を定める。対象の選定においては対象となる部会組織等が取組みについて十分納得すること。
- (3) 推進体制(役割分担)及び内部検査体制を明確にするとともに、管理責任者及び内部検査員を設置する。
- (4) 取組み対象ごとに取組み内容を定める。

推進基本方針は導入を検討する産地に対し、十分理解頂くようにしてください。決して「やらされる」といった感覚を持たれないように取組みの目的をきちんと説明してください。

5. JAにおける推進手順の作成

JAにおける推進基本方針を策定したら、推進手順の作成を行ってください。以下にPDCAサイクルを回すことによる標準的な手順の例を示します。

また、PDCAサイクルを回すにあたっては、JAは農業改良普及課と連携・協力をして進めてください。



(2) 産地(部会組織等)での取組み目標や内容について合意・決定する。

↓

(3) 取組み目標や活動理念などを明文化する。

1

- (4) JAあいち版GAPチェックシートをもとに産地版チェックシートを作成する。
- (5) 産地版チェックシートの使用方法や取組みにおける注意を部会員等に説明する (JA、部会代表等)。
- (6) 取組み生産者はチェックシートのチェック項目を確認し、自分の農場ではどうしたら各管理点に到達できるか(=チェックできるか)を決める。
- (7) 取組み生産者は到達できた管理点についてチェックシートにチェックをつける。 ↓
- (8) 取組み生産者は1作(1年)ごとに自己点検を行う。
- (9) 取組み生産者は1作(1年)ごとにチェックシートをJAに提出する。
- (10) JAは提出されたチェックシートの内容を点検し傾向を分析する。
- (11) JAは産地(部会組織等)に対して生産者用チェックシートの点検・傾向分析 結果を報告する。
- (12) JAは不適合だった管理点 (チェック項目) を改善するように指導する。
- (13) 産地(部会組織・JA等)で次作における改善について話し合いを行う。

6. JAあいち版GAP推進上の注意事項

前述したとおり、取組む生産者から「やらされる」といった感覚を持たれては長続きしないばかりか、取組みに対するメリットも見出せません。そのようなことにならないために以下に推進上の注意事項を示します。

- (1) 取組むことによるメリット「生産性向上、クレームの減少、産地全体のレベルアップ、コストダウンなど」をしっかり説明する。
- (2) 産地の実情に合わせた内容とする(レベル感を下げることではありません。管理点 [チェック項目] の内容や表現について産地の実情に合わせ修正するという意味です)。
- (3) はじめからすべての管理点(チェック項目)でチェックできなくても良いことをきちんと説明する(PDCAサイクルを回し徐々にできるように改善していくことが重要です)。
- (4) 取組む産地(部会組織等)のリーダーが取り組みに対してリーダーシップを発揮していただけるよう理解促進に努める。

また、取組みに対する検証を行うことも重要です。検証を通じてさらに高いレベルのGAPにバージョンアップできれば、有利販売につなぐこともできます。以下に検証上の注意事項を示します。

- (1) 取組み生産者に対し1作(1年)ごとに自己点検を行うよう指導する。
- (2) 生産者用チェックシートは必ず回収し内容の点検と傾向を分析する。
- (3) 傾向分析の結果について産地(部会組織等)に対し報告する。
- (4) どうしたら不適合だった管理点 (チェック項目) を改善できるかについて産地 (部会組織等) と協議を行う。
- (5) JA用のチェックシートについても同様の作業を行う。

これらのことは、JAの担当者一人が行うのではなく、JAの中でも役割分担に基づき効率よい分業体制を敷いてください。また、農業改良普及課や経済連、部会等も役割分担を明確にし「みんなで取組む」体制を作ることが重要です。

7. 管理責任者の設置

JA及び取組み部会組織には効率的な全体の進行管理を行い対外的な窓口となる「管理責任者」の設置が必要です。以下に管理責任者の責務を示します。

[JA管理責任者]

- (1) 部会役員に対するGAP手法やJAあいち版GAPの説明及び取組み意義・目的・メリット・注意点等の伝達。
- (2) 部会としての取組み目標・活動理念等の決定(部会役員との共同作業)。
- (3) 部会管理責任者及び内部検査員の設置(部会役員と協議の上)。
- (4) 部会管理責任者及び内部検査員に対する責務説明。
- (5) 進捗管理・内部検査内容、スケジュールの作成(部会管理責任者との共同作業)。
- (6) 部会版チェックシート、内部検査報告書書式の作成(部会管理責任者との共同作業)。
- (7) 部会員に対する J A あいち版 G A P や部会決定事項等の説明(説明の一部は農業改良普及課や経済連担当者に依頼してもよい。)。
- (8) 部会管理責任者に対するチェックシート配布。
- (9) チェックシート記入状況、進捗状況等の確認(内部検査における現地検査含む) (部会管理責任者、内部検査員との共同作業)。
- (10) 部会管理責任者に対するチェックシート回収日の伝達。
- (11) 回収したチェックシートのチェック状況確認(内部検査)及び傾向分析(部会管理責任者、内部検査員との共同作業)。
- (12) 不適合だった管理点 (チェック項目) の改善方策協議 (部会役員、部会管理責任者との共同作業)。
- (13) 不適合だった管理点 (チェック項目) の改善指導 (部会管理責任者との共同作業)。

「部会管理責任者」

- (1) 進捗管理・内部検査内容、スケジュールの作成(JA管理責任者との共同作業)。
- (2) 部会版チェックシート、内部検査報告書書式の作成(JA管理責任者との共同 作業)。
- (3) 部会員に対するチェックシート配布。
- (4) チェックシート記入状況、進捗状況等の確認(内部検査における現地検査含む) (JA管理責任者、内部検査員との共同作業)。
- (5) 部会員からのチェックシート回収。
- (6) 回収したチェックシートのチェック状況確認(内部検査)及び傾向分析(JA 管理責任者、内部検査員との共同作業)。
- (7) 不適合だった管理点 (チェック項目) の改善方策協議 (部会役員、JA管理責 任者との共同作業)。
- (8) 不適合だった管理点 (チェック項目) の改善指導 (JA管理責任者との共同作 業)。
- 一連の責務に対しては農業改良普及課や経済連の担当者も協力することが必要です。

8. 内部検査体制の整備

I A あいち版GAP を確実に実践しバージョンアップをはかるためには、取組む部 会組織内で相互に実施状況を確認する「内部検査体制」を整備する必要があります。

[内部検査体制]

内部検査員

JA・部会管理責任者

検査協力、指導・助言

農業改良普及課・経済連担当者

検

① 現地での進捗状況検査

② チェックシートのチェック状況検査

杳

業

務

③ 検査結果のまとめ・報告書の作成

④ 部会役員に対する検査結果報告

[内部検査員]

内部検査員は部会員からの互選により複数名選出します。

内部検査員の任期は長期とせず短期間で持ち回りとしたほうが、部会員全員の取組みに対する意識向上につながります。

内部検査員はJA・部会管理責任者とともに以下の責務を負います。

- (1) 現地での進捗状況検査(抽出検査でもよい)。
- (2) チェックシートのチェック状況検査。
- (3) 検査結果のまとめ・報告書の作成。
- (4) 部会役員に対する検査結果報告。

「内部検査内容]

内部検査内容はJA・部会管理責任者が整備します。

内容は毎年同じとせず、まず異物混入や農薬の不適切使用などの危害防止部分に重点を置いてください。そして、翌年からは前年の取組みで不十分であった管理点(チェック項目)の確認も加えてください。

また、検査対象は極力毎年変えることとし、数年で部会員全員が検査対象となるよう心がけてください。

以下に検査内容において整理すべきポイントの例を示します。

□現 地 検 査: ①検査頻度 ②重点チェックポイント ③重点検査対象 など

□シート検査: ①区分ごとのチェック状況 ②不十分であった管理点 (チェック項目) の抽出 ③人ベースでの確認 など

内部検査に対しては農業改良普及課や経済連の担当者も協力することが必要です。

JAあいち版GAPチェックシートの使い方

J A あいち版G A P チェックシートはたたき台です。産地の実情に合わせたチェックシートに修正いただくことを基本としますが、ここでは基本的な使い方等について説明します(今回提出するシートは第1.4版です)。

「生産者用チェックシート」

(1) 表紙

JA名、部会名(組織名)等を記入いただきます。また、取組み生産者は提出 日を、JAの確認担当者は確認日と氏名を記入し押印します。チェックシート は1作物につき1シートであり管理単位ごとには不要です。

(2) 表紙裏

1. GAP手法とは 2. GAP手法を導入するメリット 3. チェックシートの使い方 が明記してあります。ここでJAあいち版GAPに対する最低限の理解を得ることができます。

(3) チェックシート

- 項野菜・果樹で2ページ、米・麦・大豆で1~3ページの構成としています。 管理点(チェック項目)は下記表の通りです。
- 項目の内容や表現については産地の実情に合わせ修正いただいてもかまいません。また項目の追加も同様です(項目の削除については原則ありませんが、該当しない場合及び導入時の暫定期間に限り削除できます。)。
- チェックの頻度については1作(1年)でよいものとそれ以上のチェックが必要な管理点があります(作業の都度ごとのチェックが必要という考え方もあります)。それぞれのチェック回数の増減は産地の実情に応じ対応してください(JAあいち版GAPは作業の都度チェックする必要はなく節目でチェックすればよいという考え方です)。
- 「ガイドライン」 準拠の GAP を目指す場合は、生産者用(米・麦・大豆は 改定版) に補助シートの項目を追加し使用して下さい。
- 書式については産地ごとに改変いただいてもかまいません(1 枚のシートにする、 \bigcirc 、 \triangle 、 \times のチェックにするなど)。
- ●番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに結び つく項目です。生産者メリットの説明としています。

表 チェックシート・補助シートの管理点 (チェック項目)

	野菜・	·果樹	米·麦·大豆			
	露地用	施設用	米	麦	大豆	
JAあいち版GAPチェックシート	40	44	-	_	-	
JAあいち版GAPチェックシート(改定版)	_	1	60	58	58	
JAあいち版GAPチェックシート(導入版)	_	-	33	44	40	
JAあいち版GAP (米一般農家用)	_	-	22		_	
JAあいち版GAP 補助シート	13	13	10	10	10	

[JA用チェックシート]

(1) 表紙

JA名、部会名(組織名)、作物名を記入いただきます。また、JAの担当者は提出日を、JAの確認担当者は確認日と氏名を記入し押印します。チェックシートは1部会(組織)につき1シートとなっています。

(2) 表紙裏

生産者用チェックシートと同様ですが 3. チェックシートの使い方では JAとして実施すべき内容が明記してあります。

(3) チェックシート

- 野菜・果樹で2ページ、米・麦・大豆で2~3ページの構成としています。管理点(チェック項目)は下記表の通りです。
- チェックシートの確認・改善や管理責任・内部検査の項目は特に、JAとして 機能を発揮することのできる重要な項目になります。
- ●項目の内容や表現については産地の実情に合わせ修正いただいてもかまいません。また項目の追加も同様です。
- チェックの頻度については1作(1年)でよいものとそれ以上のチェックが必要な管理点があります(作業の都度ごとのチェックが必要という考え方もあります)。それぞれのチェック回数の増減は産地の実情に応じ対応してください(JAあいち版GAPは作業の都度チェックする必要はなく節目でチェックすればよいという考え方です)。
- 「ガイドライン」準拠の GAP を目指す場合は、JA 用 (米・麦・大豆の改定版) に補助シートの項目を追加し使用して下さい。
- 書式については産地ごとに改変いただいてもかまいません(1 枚のシートにする、 \bigcirc 、 \triangle 、 \times のチェックにするなど)。
- ●番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに結び つく項目です。生産者メリットの説明としています。

野菜・果樹のチェックシートの番号は生産者用シートの管理項目に対応するようにしています。従ってシートによっては番号が飛んでいます。集計作業は番号ごとに行うようにしてください。また、JAあいち版GAPのチェックシートはエクセルで作成しています。JAにはエクセルファイルでお渡ししますので、JAにおいて産地の実情に合わせた改変をお願いします。

表 チェックシート・補助シートの管理点 (チェック項目)

	野菜	• 果樹	米∙麦∙大豆			
	露地用	施設用	米	麦	大豆	
JAあいち版GAPチェックシート	29	30	-	-	_	
JAあいち版GAPチェックシート(改定版)	-	_	62	59	61	
JAあいち版GAPチェックシート(導入版)	-	_	55	50	43	
JAあいち版GAP (米一般農家用)	-	_	ı		_	
JAあいち版GAP 補助シート	-	-	1	1	1	

JAあいち版GAP チェックシート(見本集) 野菜・果樹

1.露地 生産者用シートP1~

2.露地 JA用シート P5~

3.施設 生産者用シートP9~

4.施設 JA用シート P13~

5.補助シート P17~

制 定:平成20年7月

改 定:平成25年11月

JAあいち版GAP チェックシート 野菜・果樹(露地)

【生産者用】

JA	名									
部会	名									
作物	名									
氏	名									
住	所								· · · ·	
提出	B	平成	年	月	日	確認日	平成	年	月	Ξ
						確認者		 		(1)

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



①計画(Plan)

農作業の計画を立て、点検項目(チェックシート)を定めます。

②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。



(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付 けに役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・自分の作型に合った管理点について実施しましょう。
- ・農作業計画を立て、自分の農場ではどうしたら各管理点が到達できるか決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから実施しましょう。
- ・1作(1年)が終了したら、どの程度実施できたかの自己審査を行いましょう。
- ・実施できなかった管理点は次作(来年)実施できるようにするためには どうしたらよいかを考えましょう。
- ・1作(1年)分のチェックシートができたらJAに提出しましょう。
- 番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに 結びつく項目です。

平成25年11月 野菜・果樹 生産者用 第1.4版 チェックシート 露地

×	分	管理点(チェック項目)	ロチェ	ェック印と	日付を記入
	情報	土づくり、肥培管理等環境保全型農業や省エネに関する資料を収集したり、研修を受講しましたか。		月	В
1-2	収集	安全防除や農薬に関する資料を収集したり、研修を受講しましたか。		月	В
2-1	確水認源	水源(農業用水、地下水、水道、その他)が明らかな水を用いていますか。		月	
9-1	± づ	定期的に土壌診断を実施していますか。		月	
3-2	うくり資	たい肥や土壌改良資材は、表示を確認するなどして、原料の種類や主 な成分の含有量が明らかなものを施用していますか。		月	В
3-3	材・肥	たい肥や土壌改良資材は、JAの土づくり基準や土壌診断結果などを 参考にして施用していますか。		月	
3-4	船料の適	たい肥の施用後は、速やかに土壌と混ぜていますか。	П	月	В
3-5	週切な使	肥料は、登録・届出された表示があるものを選択していますか。		月月月	
3-6	用用	JAの施肥基準や土壌診断結果などを参考にした施肥を行っていますか。		月月月	8 8
4-1	種苗	登録品種については、無断で増殖しないなど、種苗を適切に扱っていますか。		月	8
5-1	適靈	種苗は、使用農薬(使用方法、使用成分名と使用回数)の確認をして いますか。		月	8
5-2	適切な使用	使用する作物の登録農薬であることを確認して購入していますか。		月月月月	
5-3	用的	対象作物に登録のある農薬をラベルの使用基準どおり使用しています か。		月月月	
6-1	農薬飛	粒剤等の飛散しくにい農薬を使用したり、風がほとんどない時間に作 業を行うようにしていますか。		月月月	
6-2	散事故	散布機の調整は適切に行っていますか。		月月月	8
6-3	防止	住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時には、散布前に近隣 住民や田畑所有者に周知するようにしていますか。		月月月	
7-1	適切な	適期防除のために、病害虫の発生状況を観察や予察情報などで確認し ていますか。		月月月月	8 8
7-2	な防除	JAの防除ごよみなどを参考にした、ローテーション防除やマルチ・防虫ネットなどを活用した総合防除(IPM)に取り組んでいますか。		月月月	8
9-1	9000	たい肥、土壌改良資材、肥料、農薬、種苗等の購入伝票を保管してい ますか。		月月月	
9-2	管	たい肥、土壌改良資材、肥料、農薬等は入出庫管理簿へ記録していま すか。		月月月	
9-3	理	農薬は在庫のチェックと計画的な利用に努めていますか。		月月月	8

平成25年11月 野菜・果樹 生産者用 第1.4版 チェックシート 露地

×	分	管理点(チェック項目)	ロチョ	こック印と日	3付を記入
10-1		農薬は、カギをかけて保管するようにしていますか。		月月月	
10-2	適正	「毒物」、「劇物」に該当する農薬は、保管庫に「医薬用外毒物」、 「医薬用外劇物」の表示をしていますか。		月	B
10-3	保管	農薬を別の容器へ移し替えないようにしていますか。		月	В
10-4		ガソリンなどの揮発油は安全な容器に保管していますか。		月	8
11-1	施肥奶防	肥料や農薬を使用したときは、生産履歴記帳シート(栽培日誌)に記帳し、出荷前までにJAへ提出していますか。		月月月	8
11-2	理除記・録収	収穫物については、収穫ほ場・収穫日・出荷日・出荷量等に関する記録を保管していますか。		月	В
11-3	穫	は場や作業場から発生する被覆フィルム・こん包資材等を分別して適 正に処理し、その記録を保管していますか。		月	В
12-1	舎	トイレの後や作業の前には手洗いを励行し、清潔な作業着を着用して いますか。		月月月	
12-2	衛生管理	喫煙・飲食は決めた場所で行っていますか。		月月月	
12-3	生	帽子の着用などにより異物の混入を防止するなど、衛生に注意した農 産物の調製を行っていますか。		月月月	
13-1	作業	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、 適正使用をしていますか。		月月月	
13-2	業環境	作業前後には、出荷調製用の架台の清掃を行う <u>とともに、安全で清潔な包装容器を用いる</u> など、清潔で衛生的に農産物を取扱っていますか?		月月月	
13-3	労働	事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していますか。		月	
13-4	安 全	農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心が け、マスクをかけて作業していますか。		月月月	
14-1	適 正	作物残さについては、たい肥化したり、ほ場への還元を行うなど、リ サイクルするようにしていますか。		月	В
14-2	処 理 ・	農薬の空き容器は地域で定められた回収・廃棄方法で処理しています か。		月	Θ
14-3		期限切れ農薬は、JAによる回収に出すなど適正に処理していますか。		月	В
16-2	確認	1作(1年)ごとに自己点検を行っていますか。		月	8
16-4	· 改 善	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしましたか。		月	8

J A あいち版G A Pチェック項目野菜・果樹 (露地)

【JA用】

JA名	<u> </u>					450		
部会名	×							
作物名		_						···
提出日	平成	年	月	確認日	平成	年	月	_B
		22		確認者				(P)

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



①計画(Plan)

農作業の計画を立て、点検項目 (チェックシート)を定めます。 ②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに 役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけ ます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・生産者の作型に合った管理点について実施しましょう。
- ・農作業計画を立て、わがJAではどうしたら各管理点が到達できるか 決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから 実施しましょう。
- ・生産者から1作(1年)分のチェックシートを回収しましょう。
- ・回収した生産者用チェックシートおよびJA用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しましょう。
- ・産地・部会に対して傾向分析結果を報告し、不適合だった項目の改善方法を 生産者と一緒になって考えましょう。
- 番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに 結びつく項目です。

区公 管理点 (チェック項目) ロチェック印と日付を記入 土づくり、肥培管理等環境保全型農業や省エネに関する情報や資料 情 月 B を提供したり、研修を実施しましたか。 報 提 安全防除や農薬に関する情報や資料を提供したり、研修を実施しま 供 月 H したか。 定期的に土壌診断を実施し、診断結果に基づく処方箋を作成してい 土づ 3-1 月 \Box ますか。 適切な使用 たい肥や土壌改良資材は、原料の種類や主な成分の含有量が明らか 3-2 28 月 \Box なものを施用する指導をしていますか。 土づくり基準を作成し、土壌診断結果に基づく土づくり指導を行っ 角肥 3-3 月 \Box ていますか。 料 施肥基準を作成し、土壌診断結果に基づく肥培管理指導を行ってい 0 3-6 月 ますか。 種 登録品種については、無断で増殖しないなど、種苗を適切に扱うよ 4-1 月 苗 うに指導を行っていますか。 なの農 農薬取り扱い窓口では、使用する作物の登録農薬であることを確認 5-1使適率 月 В して供給していますか。 用切等 住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時には、散布前に近隣 6-3 事薬 止 故飛 月 \Box 住民や田畑所有者に周知するルールを策定していますか。 適 適期防除のために、病害虫の発生予察情報を迅速に提供しています 7-1 月 切 な 防 ローテーション防除や総合防除(1PM)の考え方を取り入れた防 7-2 月 除 除ごよみを作成し、こよみに関する説明を行っていますか。 除施 生産履歴記帳シート(栽培日誌)を生産物の出荷前に回収・確認し 記肥 11-1 月 ていますか。 録防 月 \Box トイレの後や作業の前には手洗いを励行し、清潔な作業着を着用し 12 - 1月 ていますか。 集衛生 月 B 月 \Box 荷管 喫煙・飲食は決めた場所で行っていますか。 12 - 2月 B 施設) 月 月 B 帽子の着用などにより異物の混入を防止するなど、衛生に注意した 12 - 3月 農産物の調製を行っていますか。 月 Ē 作 月 H 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うととも 13-1 月 へ業 に、適正使用の指導を行っていますか。 集環 月 作業前後には、出荷調製用の架台や収穫用コンテナの清掃を行うと 出境 月 B 荷· 13-2 ともに、安全で清潔な包装容器を用いるなど、農産物を衛生的に 月 施労 扱っていますか。 月 設働 事故後の集出荷の維持・継続に向けた保険への加入を促しています 安 13-3 月 H 全 か。 適 期限切れ農薬・廃農薬は、適正に回収処理していますか。 14 - 3廃棄工匠処理 月 B ほ場や作業場から発生する被覆フィルム・こん包資材等は適正に回 14-4 月 Θ 収処理していますか。 輸 集出荷施設から生産物を輸送する輸送業者の輸送管理マニュアルを 15 - 1月 B 送 入手していますか。

平成25年11月 野菜・果樹 JA用 第1.4版 チェックシート 露地

平成25年11月 野菜・果樹 JA用 第1.4版 チェックシート 露地

	分	管理点(チェック項目)	ロチェック印と日付を記入			
16-1	(生	生産者用チェックシートは作付け終了後速やかに回収しましたか。		月	В	
16-2	産確	回収した生産者用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しまし たか。		月	В	
16-3	シ改 l 善	産地・部会に対して生産者用チェックシートの点検・傾向分析結果 を報告しましたか。	□	月	8	
16-4	<i>L</i>)	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するように指導をして いますか。		月	В	
17-1	シへ認している。	JA用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しましたか。		月	B	
17-2	トA改用善	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしました か。		月	8	
18-1	内部検査・	JAおよび取り組み部会組織に管理責任者を設置しましたか。		月	В	
-18-2	検見 査・	取り組み部会組織内で管理責任者による内部検査を実施しましたか。		月	Ð	

JAあいち版GAP チェックシート 野菜・果樹(施設)

【生產者用】

					確認者				(II)
提出		平成	年	月	確認日	平成	年	月	Е
住	所					***			
氏	名			*					
作物	名								
部会	名	-							
JΑ	名	r <u> </u>							

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



①計画(Plan) 農作業の計画を立て、点検項 目(チェックシート)を定めます。 ②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。



(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- 記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上に つながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・自分の作型に合った管理点について実施しましょう。
- ・農作業計画を立て、自分の農場ではどうしたら各管理点が到達できるか決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから 実施しましょう。
- ・1作(1年)が終了したら、どの程度実施できたかの自己審査を行いましょう。
- ・実施できなかった管理点は次作(来年)実施できるようにするためにはどうしたらよいかを考えましょう。
- ・1作(1年)分のチェックシートができたらJAに提出しましょう。
- 番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに 結びつく項目です。

区分 ロチェック印と日付を記入 管理点(チェック項目) 土づくり、肥培管理等環境保全型農業や省エネに関する資料を収集 1-1 情 月 したり、研修を受講しましたか。 報 収 安全防除や農薬に関する資料を収集したり、研修を受講しました 集 1-2 月 確水 水源(農業用水、地下水、水道、その他)が明らかな水を用いてい 月 2-1 \Box 認源 ますか。 3-1 定期的に土壌診断を実施していますか。 月 \Box 土づ < たい肥や土壌改良資材は、表示を確認するなどして、原料の種類や 3-2 0 月 主な成分の含有量が明らかなものを施用していますか。 資 材 たい肥や土壌改良資材は、JAの土づくり基準や土壌診断結果など 3-3 月 \Box を参考にして施用していますか。 肥 料 3-4 たい肥の施用後は、速やかに土壌と混ぜていますか。 月 \Box 0 適 月 切 3-5 肥料は、登録・届出された表示があるものを選択していますか。 月 な 月 旦 使 月 B 用 JAの施肥基準や土壌診断結果などを参考にした施肥を行っていま 月 H 3-6 月 E 種 登録品種については、無断で増殖しないなど、種苗を適切に扱って 4-1 月 描 いますか。 種苗は、使用農薬(使用方法、使用成分名と使用回数)の確認をし 5-1 月 B ていますか。 月 適農 切点 5-2 使用する作物の登録農薬であることを確認して購入していますか。 月 \Box 切な使の薬等の 月 月 \Box 前の 対象作物に登録のある農薬をラベルの使用基準どおり使用していま 5-3 月 \Box すか。 H 月 セイヨウオオマルハナバチの飼育に関する環境省の許可取得及び適 5-4 月 切な飼育管理を行っていますか。 月 \Box 粒剤等の飛散しくにい農薬を使用したり、風がほとんどない時間に 6-1 月 薬 作業を行うようにしていますか。 月 飛 月 \Box 散 月 6-2 |散布機の調整は適切に行っていますか。 B 事 月 $\mathbf{\Xi}$ 故 月 \Box 防 住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時には、散布前に近隣 6-3 月 \Box 止 住民や田畑所有者に周知するようにしていますか。 月 月 \Box 適 適期防除のために、病害虫の発生状況を観察や予察情報などで確認 月 B 切 していますか。 П 月 \Box な JAの防除ごよみなどを参考にした、ローテーション防除やマル 月 \Box 防 チ・防虫ネットなどを活用した総合防除(IPM)に取り組んでい 月 7-2 除 ますか 月 П H 暖房機の掃除を行い、冬期には二重被覆又は夜間の変温管理を行う 8-1 I 月 など省エネに努めていますか。 月 B たい肥、土壌改良資材、肥料、農薬、種苗等の購入伝票を保管して 9-1 月 いますか。 月 出 月 \Box たい肥、土壌改良資材、肥料、農薬等は入出庫管理簿へ記録してい 庫 9-2 月 ますか。 管 月 \Box 理 月 9-3 農薬は在庫のチェックと計画的な利用に努めていますか。 月 月 Ē

平成25年11月 野菜・果樹 生産者用 第1.4版 チェックシート 施設

平成25年11月 野菜・果樹 生産者用 第1.4版 チェックシート 施設 区分 ロチェック印と日付を記入 管理点(チェック項目) 10-1 月 農薬は、カギをかけて保管するようにしていますか。 月 「劇物」に該当する農薬は、保管庫に「医薬用外毒 10-2 月 物」、「医薬用外劇物」の表示をしていますか。 適 正保 10 - 3農薬を別の容器へ移し替えないようにしていますか。 月 \Box 10 - 4ガソリンなどの揮発油は安全な容器に保管していますか。 月 \exists 10 - 5重油タンクに防油堤を設置していますか。 月 H 月 \Box 肥料や農薬を使用したときは、生産履歴記帳シート(栽培日誌)に 11-1 月 記帳し、出荷前までにJAへ提出していますか。 検 月 H 查 収穫物については、収穫ほ場・収穫日・出荷日・出荷量等に関する 11 - 2П 月 H 記録を保管していますか。 **62** 録 ほ場や作業場から発生する被覆フィルム・こん包資材等を分別して 11 - 3月 \Box 適正に処理し、その記録を保管していますか。 点 検 必要に応じて、ボイラーの使用で必要となる取扱作業主任者の設置 11-4 や届け出を行い、資格のある者のみが作業に従事するとともに、検 月 H 査・点検結果を記録、保存していますか。※1 月 トイレの後や作業の前には手洗いを励行し、清潔な作業着を着用し 12-1 月 Θ ていますか。 月 衛 月 \Box 生 12-2 月 喫煙・飲食は決めた場所で行っていますか。 管 月 \Box 理 月 帽子の着用などにより異物の混入を防止するなど、衛生に注意した 12-3 月 農産物の調製を行っていますか。 月 日日 月 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うととも 月 13-1 作 に、適正使用をしていますか。 月 業 作業前後には、出荷調製用の架台や収穫用コンテナの清掃を行うと 月 環 ともに、安全で清潔な包装容器を用いるなど、農産物を衛生的に 13-2 月 境 扱っていますか。 月 H 労 13-3 事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していますか。 月 働 安 月 農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心 全 13-4 月 がけ、マスクをかけて作業していますか。 A \Box 作物残さについては、たい肥化したり、ほ場への還元を行うなど、 適 14-1 月 B リサイクルするようにしていますか。 正 処 農薬の空き容器は地域で定められた回収・廃棄方法で処理していま 理 14-2 月 \Box すか。 廃 期限切れ農薬は、JAによる回収に出すなど適正に処理しています 14 - 3棄 月 か。 確 16-2 1作(1年)ごとに自己点検を行っていますか。 月 認 改 不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしました

16-4

月

 \exists

J A あいち版G A P チェック項目 野菜・果樹 (施設)

【JA用】

JA名			*		3.1				
部会名									
作物名		·							<u></u> -
提出日	平成	年	月	8	確認日	平成	年	月	<u> </u>
	v				確認者	*			◍

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



①計画(Plan)

農作業の計画を立て、点検項目 (チェックシート)を定めます。 ②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに 役立てます。

③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・生産者の作型に合った管理点について実施しましょう。
- ・農作業計画を立て、わがJAではどうしたら各管理点が到達できるか 決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから実施しましょう。
- ・生産者から1作(1年)分のチェックシートを回収しましょう。
- ・回収した生産者用チェックシートおよびJA用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しましょう。
- ・産地・部会に対して傾向分析結果を報告し、不適合だった項目の改善方法を生産者と一緒になって考えましょう。
- ・番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに 結びつく項目です。

区分 管理点(チェック項目) ロチェック印と日付を記入 土づくり、肥培管理等環境保全型農業や省エネに関する情報や資料 情 月 H を提供したり、研修を実施しましたか。 報 提 安全防除や農薬に関する情報や資料を提供したり、研修を実施しま 供 1-2 月 したか。 定期的に土壌診断を実施し、診断結果に基づく処方箋を作成してい 土づ 3-1 П 月 ますか。 適ける たい肥や土壌改良資材は、原料の種類や主な成分の含有量が明らか 3-2 切 月 \Box なものを施用する指導をしていますか。 資 な使り 土づくり基準を作成し、土壌診断結果に基づく土づくり指導を行っ 3-3 角肥 月 \Box ていますか。 料 施肥基準を作成し、土壌診断結果に基づく肥培管理指導を行ってい 0 3-6 月 \Box ますか。 種 登録品種については、無断で増殖しないなど、種苗を適切に扱うよ 4-1 月 8 苗 うに指導を行っていますか。 切な使用農薬等の 農薬取り扱い窓口では、使用する作物の登録農薬であることを確認 5 - 1月 \Box して供給していますか。 角道 セイヨウオオマルハナバチの飼育に関する環境省の許可取得及び適 5-4 月 \Box 切な飼育管理を行うよう指導していますか。 防党 住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時には、散布前に近隣 い 事薬 止 故 飛 6-3 月 $\boldsymbol{\exists}$ 住民や田畑所有者に周知するルールを策定していますか。 適 適期防除のために、病害虫の発生予察情報を迅速に提供しています 7-1 月 切 H か。 な 防 ローテーション防除や総合防除(IPM)の考え方を取り入れた防 7-2 月 H 除 除ごよみを作成し、こよみに関する説明を行っていますか。 点 検 検 生産履歴記帳シート(栽培日誌)を生産物の出荷前に回収・確認し 11-1 ていますか。 月 B 月 トイレの後や作業の前には手洗いを励行し、清潔な作業着を着用し 12 - 1月 \Box 集衛 ていますか。 月 《出生 月 \Box 荷管 12 - 2喫煙・飲食は決めた場所で行っていますか。 月 施設) 月 月 帽子の着用などにより異物の混入を防止するなど、衛生に注意した 12-3 月 農産物の調製を行っていますか。 月 月 作 \Box 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うととも 13-1 へ業 月 \Box に、適正使用の指導を行っていますか。 集環 月 出境 作業前後には、出荷調製用の架台や収穫用コンテナの清掃を行うと 月 13-2 荷・ ともに、安全で清潔な包装容器を用いるなど、農産物を衛生的に 月 \Box 施労 扱っていますか。 月 設働 事故後の集出荷の維持・継続に向けた保険への加入を促しています 安 13-3 月 か。 全 適 14-3 期限切れ農薬・廃農薬は、適正に回収処理していますか。 Ħ 廃血 \Box 棄证 ほ場や作業場から発生する被覆フィルム・こん包資材等は適正に回 14 - 4月 \Box 収処理していますか。 集出荷施設から生産物を輸送する輸送業者の輸送管理マニュアルを 15 - 1月 送 入手していますか。

平成25年11月 野菜・果樹 JA用 第1.4版 チェックシート 施設

平成25年11月 野菜・果樹 JA用 第1.4版 チェックシート 施設

×	分	管理点(チェック項目)	ロチェック印と日付を記入			
16-1	<u></u>	生産者用チェックシートは作付け終了後速やかに回収しましたか。		F	8	
16-2	生 産確 者認 用・	回収した生産者用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しましたか。		F.		
16-3	シ改一善	産地・部会に対して生産者用チェックシートの点検・傾向分析結果 を報告しましたか。		Æ		
16-4	<i>L</i>)	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するように指導をして いますか。		J.	B B	
17-1	シ(認)	JA用チェックシートの内容を点検し傾向を分析しましたか。		月	8 8	
17-2,	り用き	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしました か。		F.	В	
18-1	内部検査・	JAおよび取り組み部会組織に管理責任者を設置しましたか。		月	1 8	
18-2	検任 査・	取り組み部会組織内で管理責任者による内部検査を実施しましたか。		F.	В	

JAあいち版GAP 補助シート 野菜・果樹

【ガイドライン対応追加用】

- 1.チェックシートの使い方
- ・国が示している「GAPの共通基盤に関するガイドライン」を準拠するための追加項目です。
- ・ガイドラインに準拠したGAPに取り組まれる産地は、生産者用に追加しご活用ください。
- ・番号に網掛けのある管理点は、生産性(作業性)の向上やコストダウンに 結びつく項目です。

〇生産者用に追加する項目

×	分	管理点(チェック項目)	ロチェ	ック印とE	3付を記入
3-7	土づくり資材・	たい肥を施用する場合は、病原微生物による汚染を防止する ため、数日間、高温で発酵したたい肥を使用していますか?		月	В
3-8	な使用料	たい肥を施用する場合は、外来雑草種子等の殺滅のため、十 分にたい肥化されたものを使用していますか?		月	В
4-2	種苗	自ら開発した品種や技術は登録を行うなど、知的財産を保 護・活用していますか?		月	
5-5	適切な使用農薬等の	農薬使用後に防除器具を洗浄していますか?		月月月	
5-6		使い残した散布液は散布むらの調整で使い切るようにしてい ますか?		月月月	8 8
8-2	省 エ ネ	作業工程の工夫など、省エネに努めていますか?		月	В
12-4	管衛 理生	貯蔵・輸送時に適切な温度管理に努めていますか?		月	
13-5	· 作 労業	体調が良くない時は、作業を行わないようにしていますか?		月	В
13-6	・労働安全	作業環境の整理、防護服の着用等、作業の安全確保に努めて いますか?		月月月	000
19-1		は場の位置、面積等を記載した台帳を整備していますか?		月	В
19-2	周辺環境・	土壌侵食を軽減するため、ほ場の裸地期間が短くなる栽培計 画を立てていますか?		月	8
19-3	環境	鳥獣を引き寄せない取組等、有害鳥獣による農業被害防止対 策を実施していますか?		月	В
19-4		施設内の清掃に努めていますか?		月月月月	

JAあいち版GAP チェックシート(様式集) 米・麦・大豆

JAあいち版GAPチェックシートについて

P1

1-①. 生産者用チェックシート(改定版)

P2~

1-②. JA用チェックシート(改定版)

P7~

2-①. 生産者用チェックシート(導入版)

P12~

2-②. JA用チェックシート(導入版)

P20~

JAあいち版GAP(米一般農家用) P28
 兼 JA米生産者自己点検チェックシート

4. JAあいち版GAP補助シート

P29

JAあいち版GAPチェックシートについて

(1)現在のJAあいち版GAP様式

1. JAあいち版GAPチェックシート(改定版)

平成23年8月に新たに作成した様式です。 愛知県が定める県GAP「やろまいシート」の必須項目に準拠する形となり、 よりレベルの高いGAP様式となっています。

2. JAあいち版GAPチェックシート(導入版)

改定版と同じく平成23年8月に作成した様式です。 改定版に比べ、比較的簡単な項目となっており、改定版に移行するまでの 経過措置の様式です。

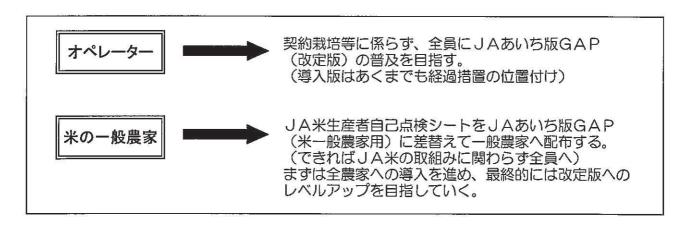
3. JAあいち版GAP(米一般農家用) 兼 JA米生産者自己点検チェックシート

米一般農家へのGAP周知・普及を目指すべく、平成24年10月に作成した様式です。一般農家への導入のし易さを考え、以前よりJA米生産者に取り組んで頂いている「JA米生産者自己点検シート」にGAP項目を数項目追加した形となっています。

4. JAあいち版GAP補助シート

国が示している「GAPの共通基盤に関するガイドライン」に準拠するための追加項目です。 国のガイドラインに準拠したGAPに取り組まれる産地は<u>「改定版」</u>様式に項目を追加して ご活用下さい。

(2) GAP普及イメージ



JAあいち版GAP チェックシート 米・麦・大豆

改定版

【生産用】

制 定:平成23年8月1日

改 定:平成25年11月13日

JA名			*						
部会名		··	••	7	7000-à-			-	*
作物名	,								
提出日	平成	年	月	<u>B</u>	確認日	平成	年	月	
					確認者				₽

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。

①計画(Plan) 農佐業の計画を

農作業の計画を立て、点検項目 (チェックシート)を定めます。

②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに 役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけ ます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・農作業計画を立て、わが農場ではどうしたら各管理点が到達できるか決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから実施しましょう。
- ・1作(1年)が終了したら、どの程度実施できたかの自己審査を行いましょう。
- ・実施できなかった管理点は次作(来年)実施できるようにするためにはどうしたらよいかを考えましょう。
- ・1作(1年)分のチェックシートができたらJAに提出しましょう。

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【生産者用】

工程	番号	チェック項目	チェック			
-1-7主	田力	アエック項目	米	麦	大豆	
1 準備	1.1.	土づくりや肥培管理等環境保全型農業に関する資料を収集したり、 研修を受講しましたか。				
	1.2.	安全防除や農薬に関する資料を収集したり、研修を受講しましたか。				
	1.3.	JAの防除ごよみなどを参考にした、総合的な防除に取り組んでいますか。				
	1.4.	JA米を作付けする場合、JA米の3つの要件を知っていますか。 (種子更新、生産履歴記帳、農産物検査)	J A #			
	1.5.	水源(農業用水、地下水、水道、その他)が明らかな水を用いていますか。				
	1.6.	定期的に土壌診断を実施していますか。				
	1.7.	土壌改良資材等は、表示を確認するなどして、原料の種類や主な成分の含有量が明らかなものを施用していますか。				
	1.8.	土壌改良資材等は、JAの土づくり基準や土壌診断結果などを参考 にして施用していますか。				
	1.9.	JAの施肥基準や土壌診断結果などを参考にした施肥を行っていますか。				
	1.10.	使用する作物の登録農薬であることを確認して購入していますか。				
	1.11.	代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田水の流出防止に努め ましたか。				
	1.12.	新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が対象作物の生産に適しているか、検討していますか。				
	1.13.	作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗 渠は、排水できる用水路の確保ができていますか。				
2 育苗	2.1.	品種が確認された種子、又は苗を購入しましたか。	J А Ж			
	2.2.	種子(苗)の品種を確認し、品種ごとに管理し移植まで間違いありませんでしたか。	J A *		ration de la Maria	
	2.3.	購入した苗の使用農薬(使用方法、使用成分名と使用回数)を確認していますか。		Lillian († 1864) Popularies		
	2.4.	種子消毒・箱施薬は決められた薬剤の使用回数・使用量を守って行いましたか。				
	2.5.	対象作物に登録のある農薬をラベルの使用基準どおり使用していますか。				
	2.6.	農薬散布機の調整を行う等、農薬の飛散低減対策をしていますか。				
	2.7.	住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時には、散布前に近 隣住民や田畑所有者に周知するようにしていますか。				
-						

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【生産者用】

XD	来旦	チャルクボロ	チェック			
工程	番号	チェック項目	*	麦	大豆	
	3.1.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。	J A *			
	3.2.	肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用 量、使用時期を守って使いましたか。	J A *			
	3.3.	土壌改良資材、肥料、農薬等は入出庫管理簿へ記録し、計画的な利用に努めていますか。				
	3.4.	肥料は、登録・届出された表示があるものを選択していますか。				
3	3.5.	農薬散布は決められた薬剤の使用回数・使用量を守って行いましたか。				
	3.6.	対象作物に登録のある農薬をラベルの使用基準どおり使用していますか。				
栽培管理	3.7.	農薬散布機の調整を行う等、農薬の飛散低減対策をしていますか。				
理理	3.8.	住宅地や田畑に近接した農地で農薬を散布する時(ヘリ防除を含む) には、散布前に近隣住民や田畑所有者に周知するようにしています か。				
	3.9.	農薬等の施用を委託した場合には、その実施状況を確認していますか。				
	3.10.	病害虫の発生状況を観察や予察情報などで確認し、適期防除に努 めましたか。				
Soliton	3.11.	赤かび病の適期防除に努めましたか。				
	3.12.	出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。	J A *			
	4.1.	JA等の指導を受け、収穫前に水分確認をしましたか。				
4	4.2.	銘柄ごとに適期収穫を行いましたか。				
7	4.3.	赤かび病または穂発芽が発生した麦などは健全な麦と区分して収穫 しましたか。				
収穫	4.4.	圃場内の雑草や青立ち株を取り除き収穫するように努めましたか。				
1,50,	4.5.	収穫時、泥汚損が発生しないように努めましたか。				
	4.6.	コンバインは使用前、使用後、品種切り替え時には清掃しましたか。	J A *			
5	5.1.	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理 を行いましたか。				
	5.2.	乾燥調製機は、作業開始前に清掃しましたか。	J A *			
乾 調燥 整	5.3.	乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。	J A *			
燥整	5.4.	赤かび病または穂発芽が発生した麦、高水分麦などは仕分けして乾燥・調製しましたか。				
	5.5.	汚損粒等のひどいものは仕分けし、調製しましたか。				

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【生産者用】

工程	番号		チェック			
	田勺	アエクン項目	米	麦	大豆	
6	6.1.	JA施設へ搬入する時には現物と伝票記載は合致していましたか。	J A *			
C.	6.2.	検査までの保管管理は品種ごとに間違いありませんでしたか。	J A *			
検保査管	6.3.	検査依頼現物と検査請求内容は間違いありませんでしたか。	J A *			
査 管	6.4.	検査結果と格付理由を確認しましたか。				
	6.5	新規需要米などの用途限定米穀、カビが付着した米などの食用不適 米穀は、食用米と分けて保管、処理していますか。				
	7.1.	わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適 正な処理をしましたか。				
	7.2.	収穫後に残った莢や茎を鋤込んだりして、野焼きせず適正な処理をしましたか。				
	7.3.	肥料袋や農薬の空き容器などの廃棄物は適正に廃棄しましたか。				
	7.4.	期限切れ農薬・廃農薬は、JAによる回収に出すなど適正に処理していますか。				
	7.5.	土壌改良資材、肥料、農薬、種苗等の購入伝票を保管していますか。				
	7.6.	生産履歴は正しく記帳し、記入漏れはないですか。	J A *			
	7.7.	生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までにJAで確認されましたか。	J A *			
	7.8.	生産履歴は収穫日を記入し期日までにJAへ提出しましたか。	J A			
7	7.9.	農薬は、カギをかけて保管するようにしていますか。				
	7.10.	「毒物」、「劇物」に該当する農薬は、保管庫に「医薬用外毒物」、「医薬用外劇物」の表示をしていますか。				
全 般	7.11.	農薬を別の容器へ移し替えないようにしていますか。				
	7.12.	ガソリンなどの揮発油は安全な容器に保管していますか。				
	7.13.	トイレの後や作業の前には手洗いを励行し、清潔な作業着を着用していますか。				
	7.14.	喫煙・飲食は決めた場所で行っていますか。				
		定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適 正使用をしていますか。				
	7.16.	作業前後には、出荷容器(コンテナ・フレコン等)の清掃を行うなど、 異品種が混入しないように扱っていますか。				
	7.17.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していま すか。			8	
	7.18.	農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心 がけ、マスクをかけて作業していますか。				
	7.19.	1作(1年)ごとにGAPの自己点検を行っていますか。				
	7.20.	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしましたか。				

JAあいち版GAP チェックシート 米・麦・大豆

改定版

【JA用】

制 定:平成23年8月1日

改 定:平成25年11月13日

JA名	-			7-00//				
部会名	1			,			<u> </u>	
作物名	<u> </u>							
提出日		平成	年	月	В	-		
¥					確認者			(P)

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



農作業の計画を立て、点検項目 (チェックシート)を定めます。 ②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに 役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・米や麦、大豆で管理点が異なります。生産者の該当品目の管理点について実施しましょう。
- ・米についてはJA米についての管理点も項目立てしています。
- ・農作業計画を立て、わがJAではどうしたら各管理点が到達できるか 決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから実施しましょう。
- ・生産者から1作(1年)分のチェックシートを回収しましょう。
- ・回収した生産者用のチェックシートおよびJA用チェックシートの内容を 点検し傾向を分析しましょう。
- ・生産者に対して傾向分析結果を報告し、不適合だった項目の改善方法を生産者と一緒になって考えましょう。

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【JA用】

工程	番号・チェック項目・			チェック	6 2
二十年	留写	アエック項目	米	麦	大豆
	1.1.	GAP、各都道府県の病害虫防除、農業環境規範に関する研修会の 開催やパンフレット配布等により情報提供を行いましたか。			
	1.2.	前年度の記録をもとに栽培こよみを見直し、生産者に配布・周知徹底しましたか。	A A *		
	1.4.	生産者に生産履歴記帳シートを配布しましたか。			
	1.3.	JA米を栽培する生産者に対し、JA米の3つの要件を伝えましたか。			
1	1.2.	播種前に出荷契約書は取りまとめましたか。			
準	1.4.	定期的に土壌診断を実施するよう指導しましたか。			
備	1.5.	土壌改良資材等は、原料の種類や主な成分の含有量が明らかなも のを施用する指導をしていますか。			
	1.6.	土づくり基準を作成し、土壌診断結果に基づく土づくり・肥培管理指導 を行っていますか。			
	1.8.	代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田水の流出防止に努めるよう、指導しましたか。			
	1,10.	新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が対象作物に適しているかどうか、情報提供を行いましたか。			
	1.11.	作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗 渠は、排水できる用水路を確保するよう指導しましたか。			
2	2.1.	品種が確認された必要種子、又は苗を購入するとともに、種子の保 証票を保管するよう、指導しましたか。	J A		
	2.3.	移植まで、種子(苗)の品種間違いが起きないように管理するよう、指 導しましたか。	J A #		
887	2.5.	種子消毒・箱施薬について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容を守るように指導しましたか。	J A *		
播育種苗	. 3.5.	農薬散布について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容 を守るように指導しましたか。			
	3.7.	農薬散布機の調整を行う等、農薬の飛散低減対策を行うよう指導し ましたか。			
	3,8.	農薬散布をする際、散布前に近隣住民に周知するよう指導しましたか。			
	3.1.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握し、出穂期には圃場 を巡回するよう指導しましたか。			
	3.2.	肥料が農産物、種苗、梱包材、農薬などと接触しないように保管するよう指導しましたか。			
		肥料は、栽培こよみによる施肥基準を参考にして適切に施用するよう 指導しましたか。	J A *		
3	3.4.	生産者がオペレーターに農地への施用を委託した場合には、その実施状況を確認するよう指導しましたか。			
栽	3.5.	農薬散布について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容 を守るように指導しましたか。	J A *		
培管理	3.6.	気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行いましたか。			
	3.7.	農薬散布機の調整を行う等、農薬の飛散低減対策を行うよう指導し ましたか。			
2	3.8.	農薬散布(へり防除を含む)をする際、散布前に近隣住民に周知する よう指導しましたか。			
	3.9.	農薬を別の容器へ移し替えないように指導しましたか。			
	3.10.	ほ場ごとの土壌条件や生育状況に応じた湛水管理の指導を行いまし たか。			

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【JA用】

工程	番号	チェック項目		チェック	a a a B
土在	田石	アエック項目	米	麦	大豆
	4.1.	収穫前にコンバインなどの整備・点検、故障箇所の修理を行うよう指導しましたか。			
	4.2.	コンパインなどの内部清掃を人意に行い、収穫の際に異物が混入しないよう指導しましたか。また、収穫後も清掃を行うよう指導しましたか。			
4	4.3.	収穫適期を予想し、生産者に適期収穫を行うよう指導しましたか。			
収穫	4.4.	倒伏している圃場や病害虫に冒されている圃場を仕分けして収穫するよう指導しましたか。			
152	4.5.	赤かび病または穂発芽が発生した麦などは健全な麦とは区分して収 穫するよう指導しましたか。			
	4.6.	圃場内の雑草や青立ち株を取り除き、収穫するよう指導しましたか。			
	4.7.	泥汚損が発生しないよう収穫指導しましたか。			
	5.1.	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理 を行いましたか。また、適切な温度管理は行いまいしたか。			
	5.2.	乾燥施設への搬入時、現物と伝票の内容は合致していましたか。			
	5.3.	荷受時に原料籾の品種の確認を行いましたか。			
	5.4.	乾燥・調製作業の開始前や品種の入れ換え前に設備の清掃を行い ましたか。			
5	5.5.	乾燥・調製施設の荷受け能力に応じた、過剰な荷受にならないよう搬入計画を立て、利用者に周知しましたか。			
乾 燥 •	5.6.	搬入計画に基づいた計画的な荷受けを行い、速やかに規定値まで乾燥しましたか。			
調製	5.7.	倒伏や病害虫による被害籾、高水分籾は仕分けして乾燥・調製しま したか。また、生産者へ指導しましたか。			
	5.8.	赤かび病または穂発芽が発生した麦、高水分麦などは仕分けして乾燥・調製しましたか。また、生産者へ指導しましたか。			
	5.9.	汚損粒等のひどい大豆は仕分けするよう指導しましたか。			
		乾燥・調製作業は異物混入が発生しないよう適切な作業をしました か。また、生産者へ指導しましたか。			
	5.11.	乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。また、生産者へ 指導しましたか。			
	6.1.	検査計画を作成し、生産者に通知しましたか。			
	6.2.	検査員の目揃いを実施し、検査基準の統一を行いましたか。			
6	6.3.	検査機器の管理・運営は適正に行われましたか。			
検 査 •	6.4.	検査は厳格かつ適正に行われましたか。			
保管	6.5.	検査野帳は適正に記録されていますか。			
	6.6.	生産者に検査結果と格付理由を通知しましたか。			
	6.7	新規需要米などの用途限定米穀、カビが付着した米などの食用不適 米穀は、食用米と分けて保管、処理していますか?			

JAあいち版GAPチェックシート(米・麦・大豆) 【JA用】

工程	番号	T 615 D	9 2 2	チェック	
上往	角写	チェック項目	米	麦	大豆
	7.1.	農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。			
	7.2.	わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適 正な処理をするよう指導しましたか。			
	7.3.	肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。			
	7.4.	入庫報告書はすみやかに提出しましたか。			
	7.5.	出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。			
	7.6.	農薬・肥料の購入伝票は保管し、在庫管理を行うよう指導しました か。	J A *		
	7.7.	農薬はカギをかけて保管し、保管庫には適切な表示をするよう指導しましたか。			
	7.8.	生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。	J A *		
	7.9.	生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *		
7	7.10,	生産履歴は期日までに全て回収しましたか。	J A *		
全般	7.11.	米の品質分析・残留農薬・カドミウム分析の検査品を提出しましたか。			
村交	7.12.	米の品質分析・残留農薬・カドミウム分析の検査結果を確認しましたか。			
	7,13,	麦のDON分析・品質分析・残留農薬分析の検査品を提出しましたか。			
	7.14.	麦のDON分析・品質分析・残留農薬分析の検査結果を確認しましたか。			
	7.15.	大豆の残留農薬の検査品を提出しましたか。			
	7.16.	大豆の残留農薬の検査結果を確認しましたか。			
	7.17.	生産者用GAPを全て回収し、チェックしましたか。			П
	7.18.	GAPの自己審査を年1回以上行い、不適合だった項目を改善するよう指導しましたか。			
	7.19.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適 正使用の指導を行っていますか。			
	7.20.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険への加入を促 していますか。			
	7.21.	農薬を使用する場合に、農薬が身体に付着しないような服装等に心 がけ、マスクをかけて作業するように指導を行っていますか。			
		MODEL ON THE TRAIN OF THE TRAIN			

JAあいち版GAP チェックシート 米・麦・大豆

導 入 版

【生産用】

JA名		**-	_			
部会名		×-				
作物名			<u>10</u>		lbi -	
提出日	平成	年	月	В	-	
				確認者		(1)

制 定:平成23年8月1日

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、 実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善など を行うものです。



①計画(Plan)

農作業の計画を立て、点検項目 (チェックシート)を定めます。 ②実践(Do)

チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付け に役立てます。

③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけます。



2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・農作業計画を立て、わが農場ではどうしたら各管理点が到達できるか決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を記 入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから実施しましょう。
- ・1作(1年)が終了したら、どの程度実施できたかの自己審査を行いましょう。
- ・実施できなかった管理点は次作(来年)実施できるようにするためにはどうしたらよいかを考えましょう。
- ・1作(1年)分のチェックシートができたらJAに提出しましょう。

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【生産者用】 表

	提出日	î	∓ .	月	E
	JA名		10 10		
3	生産者名	5528000 20		- 100	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			8.76	_

1. 準体	盖 工座自由		
番号	管理点	チェック	
1.1.	研修会参加やパンフレットなどにより情報を収集しましたか。		
1.2.	栽培こよみを読みましたか。		**
1.3.	JA米を作付けする場合、JA米の3つの要件を知っていますか。(種子更新、 生産履歴記帳、農産物検査)		JA米
1.4.	堆肥、稲わらなどの有機物や土改材の施用による土作りを行いましたか。		
1.5.	代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田水の流出防止に努めましたか。		
2. 育苗	₫ .	SELVAN MARKADON	
番号	管理点	チェック	
2.1.	品種が確認された必要種子、又は苗を購入しましたか。		JA米
2.2.	種子(苗)の品種を確認し、品種ごとに管理し移植まで間違いありませんでしたか。		JA米
2.3.	種子消毒は部会で決めた薬剤の使用回数・使用量を守って行いましたか。		
2.4.	箱施薬は部会で決めた薬剤の使用回数・使用量を守って行いましたか。		
2.5.	種子消毒・箱施薬を自ら行っていない場合、使用農薬名・使用回数・使用量の確認は行いましたか(JAが行っている場合は確認の必要はありません)。		
2.6.	農薬・肥料の保管台帳はつけていますか。		
3. 栽培	管理		
番号	管理点	チェック	
番号 3.1.	管理点 どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。	チェック	JA米
			JA米 JA米
3.1.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時		
3.1. 3.2.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時 期を守って使いましたか。		
3.1. 3.2. 3.3.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時 期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。		JA米
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。		JA米
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時 期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。		JA米
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合)		JA米
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンバインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いました	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JA米
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥 番号 4.1.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JAX JAX JAX
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥 番号 4.1. 4.2. 4.3.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。 ・乾燥調製機は、作業開始前に清掃しましたか。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JAX JAX JAX
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥 番号 4.1. 4.2. 4.3.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。 乾燥調製機は、作業開始前に清掃しましたか。 乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JAX JAX JAX
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾炒 番号 4.1. 4.2. 4.3. 5. 出荷	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。 乾燥調製機は、作業開始前に清掃しましたか。 乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。 ・ 保管等	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JAX JAX JAX
3.1. 3.2. 3.3. 3.4. 3.5. 4. 乾燥 番号 4.1. 4.2. 4.3. 5. 出荷	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか。 肥料・農薬は、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている薬剤、使用量、使用時期を守って使いましたか。 適期防除に努めましたか。 出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか。 コンパインは使用前、品種切り替え時には清掃しましたか。 ・ 調製(個人調製を行っている場合) 管理点 乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。 ・ 乾燥調製機は、作業開始前に清掃しましたか。 ・ 乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。 ・ 保管等	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JA# JA# JA# JA# JA#

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【生産者用】 裏

6. 全般

番号	管理点	チェック	
6.1.	稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をしましたか。		
6.2.	肥料袋や農薬の空き容器などの廃棄物は適正に廃棄しましたか。		Oc. 101 - 101
6.3.	肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管しましたか。		
6.4.	生産履歴は正しく記帳し、記入漏れはないですか。		JA米
6,5,	生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までにJAで確認されましたか。		JA米
6.6.	生産履歴は収穫日を記入し期日までにJAへ提出しましたか。		JA米
6.7.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用を していますか。		
6.8.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していますか。		
6.9.	農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、マスク をかけて作業していますか。		
6.10.	1作(1年)ごとにGAPの自己点検を行っていますか。		
6.11.	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしましたか。		-

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【生産者用】

表

確認日	年	 _ 日
JA名	Value 44/0201	
生産者名		80%

1. 準備

番号	管理点	チェック
1.1.	出荷契約書は締結しましたか。	
1.2.	JAや行政が主催する麦作に関する研修会に参加したり、パンフレットなどにより情報を収集しましたか。	
1.3.	栽培こよみを読みましたか。	
1.4.	5年以内に土壌診断を実施していますか。	
1.5.	土壌改良資材等の表示を確認し、栽培こよみ等に従って施用していますか。	
1.6.	新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が麦生産に適しているか、 検討していますか。	
1.7.	作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗 渠は、排水できる用水路の確保ができていますか。	
1.8.	トラクターの整備・点検を行いましたか。	

2. 播種準備

番号	管理点	チェック
2.1.	購入種子の保証票を保管していますか。	
2.2.	種子消毒は栽培こよみや農薬ラベルに記載されている使用基準を 守って行いましたか。	
2.3.	播種機の整備・点検は行いましたか。	

3. 栽培管理

番号	管理点	チェック
3.1.	肥料は、登録・届出された表示があるものを選択し、栽培こよみによる施用基準を参考にして適切に施用をしましたか。	基肥 □ 追肥 (1回目) □ 追肥 (2回目) □
3,2,	防除機械の整備・点検は行いましたか。	
3.3.	麦の登録農薬であることを確認して購入しましたか。	
3.4.	農薬散布については、JA等の関係機関の指導を受けましたか。また、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている使用基準を守り、行いましたか。	
3,5,	防除には発生予察情報を活用し、適期防除に努めましたか。 特に赤かび病の適期防除の徹底に努めましたか。	
3.6.	飛散低減ノズルへの交換や強風時に散布を行わないなど、農薬の飛 散低減対策を行いましたか。	
3.7.	農薬散布を行う場合、散布前に近隣住民に周知するようにしていますか。	
3,8,	農薬等の施用を委託した場合には、その実施状況を確認していますか。	
3.9.	肥料・農薬の在庫管理の記帳は行っていますか。	
3.10.	肥料や農薬を整理・整頓して保管していますか。また、農薬を別の 容器へ移し替えないようにしていますか。	

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【生産者用】 裏

3. 栽培管理 (続き)

番号	管理点	チェック
3.11.	農薬は、カギをかけて保管するようにしていますか。	
3.12.	「毒物」、「劇物」に該当する農薬は、保管庫に「医薬用外毒物」、「医薬用外劇物」の表示をしていますか。	
3.13.	肥料袋や農薬の空き容器、期限切れ農薬などの廃棄物は業者委託するなど適正に廃棄しましたか。	
3.14.	肥料や農薬の使用状況などを生産履歴に記帳しましたか。	
3,15.	肥料・農薬の購入伝票は保管していますか。	
4. 拟	双穫	
番号	管理点	チェック
4.1.	コンバインなどの整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。	
4.2.	コンバインなどの内部清掃を入念に行い、収穫の際に異物が混じら ないよう注意しましたか。収穫後も清掃を行いましたか。	収穫前 □ 品種切替時 □ 全麦種収穫完了時 □
4.3.	JA等の指導を受け、収穫前に水分確認をしましたか。	
4.4.	銘柄ごとに適期収穫を行いましたか。	
4.5.	赤かび病または穂発芽が発生した麦などは健全な麦と区分して収穫 しましたか。	
5. 戟	燥・調製	
番号	管理点	チェック
5.1.	生産履歴記帳シートは期日までに提出しましたか。	
5,2,	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修 理、作業場の清掃を行いましたか。	
5.3.	収穫後、すみやかに水分を17%以下まで乾燥しましたか。	
5.4.	赤かび病または穂発芽が発生した麦、高水分麦などは仕分けして乾燥・調製しましたか。	
5.5.	乾燥・調製作業の作業記録は記帳しましたか。	
6. 全	般	
番号	管理点	チェック
6.1.	検査結果と格付理由を確認しましたか。	
6.2.	手洗いの励行、喫煙・飲食は決められた場所でするなど、清潔な環 境づくりに努めましたか。	
6.3.	麦わらを鋤込んだりして、適正に処理しましたか。	
6.4.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うととも に、適正使用をしていますか。	
6.5.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していま すか。	
6.6.	農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、マスクをかけて作業していますか。	¹ □
6.7.	1作(1年)ごとにGAPの自己点検を行っていますか。	
6,8.	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしましたか。	

JAあいち版GAPチェックシート(導入版)

		 -		
,	主産			_
				-
		 	3)2	



確認日	年	月	\Box
JA名 ^一			
生産者名 生産者名		0.00	

4	244-	1++
7	準	166
- 4		ины

番号	管理点	チェック
1.1.	播種前に出荷契約書は提出しましたか。	
1.2.	研修会参加やパンフレットなどにより情報を収集しましたか。	
1.3.	栽培こよみを読みましたか。	
1.4.	土づくり資材や土壌改良資材の施用による土づくりを行いましたか。	
1.5.	新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が大豆生産に適しているか、検討していますか。	
1.6.	作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗渠は、排水できる用水路の確保ができていますか。	

2. 播種準備

番号	管理点	チェック
2.1.	購入種子の保証票を保管していますか。	
2.2.	種子消毒は栽培こよみの使用基準を守って行いましたか。	

3. 栽培管理

番号	管理点	チェック
3.1.	肥料は、登録・届出された表示があるものを選択し、栽培こよみによる施用基準 を参考にして適切な施用をしましたか。	
3.2.	農薬散布については、JAの営農指導員の助言を受けましたか。また、栽培こよ みや農薬ラベルに記載されている内容を守り、行いましたか。	
3.3.	防除には発生予察情報を活用し、適期防除に努めましたか。	
3.4.	飛散低減ノズルへの交換や強風時に散布を行わないなど、農薬の飛散低減対策を行いましたか。	
3.5.	ヘリ防除をする場合、散布前に近隣住民に周知するようにしていますか。	
3.6.	農薬・たい肥などの施用を委託した場合には、その実施状況を確認していますか。	
3.7.	肥料・農薬の在庫管理の記帳は行っていますか。	
3.8.	農薬はカギをかけて保管し、保管庫には適切な表示をしていますか。	
3,9,	肥料や農薬を整理・整頓して保管していますか。また、農薬を別の容器へ移し替 えないようにしていますか。	
3.10.	肥料袋や農薬の空き容器、期限切れ農薬などの廃棄物は業者委託するなど適正に 廃棄しましたか。	
3,11.	肥料や農薬の使用状況などを生産履歴に記帳しましたか。	
3.12.	肥料・農薬の購入伝票は保管していますか。	

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【生産者用】 裏

4. 収	穫	
番号	管理点	チェック
4.1.	コンバインなどの整備・点検、故障箇所の修理を行いましたか。	
4.2.	コンバインなどの内部清掃を入念に行い、収穫の際に異物が混じらないよう注意しましたか。	
4.3.	圃場内の雑草や青立ち株を取り除き収穫するように努めましたか。	
4.4.	適期収穫を行いましたか。	
4.5.	収穫時、泥汚損が発生しないように努めましたか。	
5. 調	製	
番号	管理点	チェック
5,1,	生産履歴記帳シートは期日までに提出しましたか。	
5,2.	調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理、作業場の清掃を行いましたか。	
5.3.	調製作業前に水分の確認しましたか。	
5.4.	調製作業は異物混入が発生しないよう適切な作業を行いましたか。	
5.5.	汚損粒等のひどいものは仕分けし、調製しましたか。	
5,6.	調製作業の作業記録は記帳しましたか。	
6. 出	包	
番号	管理点	チェック
6.1.	出荷まで品質・衛生面の管理が行われ、保管されていましたか。	
6.2.	検査結果と格付理由を確認しましたか。	
7. 全	般	
番号	管理点	チェック
7.1.	手洗いの励行、喫煙・飲食は決められた場所でするなど、清潔な環境づくりに努めましたか。	
7.2.	収穫後に残った莢や茎を鋤込んだりして、野焼きせず適正な処理をしましたか。	
7.3.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用を していますか。	
7.4.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険に加入していますか。	
7.5.	農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、マスク をかけて作業していますか。	
7.6.	1作(1年)ごとにGAPの自己点検を行っていますか。	
7.7.	不適合だった管理点(チェック項目)を改善するようにしましたか。 🎐	

JAあいち版GAP チェックシート 米・麦・大豆

導 入 版

【JA用】

JA名						
部会名						
作物名						
確認日	平成	年	月	8	ų.	
				確認者		(FI)

制 定:平成23年8月1日

JAあいち版GAPチェックシートについて

1.GAP手法とは

GAP手法とは、生産の工程を管理する手法であり、農作業の計画を立て、実践した結果をチェックし、記録を残すことで、記録をもとに作業の改善などを行うものです。



①計画(Plan)農作業の計画を立て、点検項目(チェックシート)を定めます。

②実践(Do) チェックシートを確認し農作業を 行い、記録します。

(PDCAサイクルの繰り返し)が大切です。

④見直し・改善(Action) 改善点を見直し、次回の作付けに 役立てます。 ③点検・評価(Check) 記録を点検し、改善点を見つけ ます。



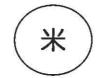
2.GAP手法を導入するメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・記録をもとに、農作業の改善につなげれば、コスト低減や品質向上につながります。
- ・取組をPRすることにより、量販店などに対する産地の評判が高まります。
- ・産地全体で取り組むことにより、産地全体の生産レベルが高まります。

3.チェックシートの使い方

- ・米や麦、大豆で管理点が異なります。生産者の該当品目の管理点について 実施しましょう。
- ・米についてはJA米についての管理点も項目立てしています。
- ・農作業計画を立て、わがJAではどうしたら各管理点が到達できるか 決めましょう。
- ・それぞれの管理点ごとに実施できたら、チェック印とチェックした月日を 記入しましょう。
- ・最初からすべての管理点が実施できなくても結構です。できるところから 実施しましょう。
- ・生産者から1作(1年)分のチェックシートを回収しましょう。
- ・回収した生産者用のチェックシート

JAあいち版GAPチェックシート(導入版)



【JA用]	表	
確認日_	年	月	$\boldsymbol{\exists}$
JA名_	400		
部署名_			
担当者名			

1. 準			
番号	管理点	チェック	備考
1.1.	GAP、各都道府県の病害虫防除、農業環境規範に関する研修会の開催やパンフレット配布等により情報提供を行いましたか。		
1.2.	前年度の記録をもとに栽培こよみを見直し、生産者に配布・周知徹底しましたか。		JA米
1,3,	有機物などの利用により、土づくをするよう生産者に指導しましたか。		
1.4.	代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田水の流出防止に努めるよう、指導しましたか。		
1.5.	JA米を栽培する生産者に対し、JA米の3つの要件を伝えましたか。		
2. 育	苗		XXXII.
番号	管理点	チェック	
2.1.	品種が確認された必要種子、又は苗を購入するとともに、種子の保証票を保管するよう、指導しましたか。		JA米
2.2.	移植まで、種子(苗)の品種間違いが起きないように管理するよう、指導しましたか。		JA米
2.3.	種子消毒は栽培こよみで決めた薬剤の使用回数・使用量を守るよう指導しましたか。		JA米
2.4.	種子消毒後の廃液は、ルールに従って処理しましたか。		
3. 栽	培管理	,	
番号	管理点	チェック	
3.1.	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握し、出穂期には圃場を巡回するよう 指導しましたか。		
3,2,	肥料は、栽培こよみによる施肥基準を参考にして適切に施用するよう指導しましたか。		JA米
3.3.	生産者がオペレーターに農地への施用を委託した場合には、その実施状況を確認するよう指導しましたか。		
3.4.	肥料が農産物、種苗、梱包材、農薬などと接触しないように保管するよう指導しましたか。		
3,5,	農薬散布については、適切に行うよう指導しましたか。	. 🗆	
3,6,	農薬散布について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容を守るように指導しましたか。		JA米
3.7	気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行いましたか。		
3.8.	飛散低減ノズルへの交換や強風時に散布を行わないなど、農薬の飛散低減対策を行 うよう指導しましたか。		
3.9.	ヘリ防除する場合、散布前に近隣住民に周知するよう指導しましたか。		
3.10.	農薬・肥料の購入伝票は保管し、在庫管理を行うよう指導しましたか。		
3.11.	農薬はカギをかけて保管し、保管庫には適切な表示をするよう指導しましたか。		
3.12.	農薬散布時、作業者は農薬のラベルの指示に従って適切な防護服を着用するよう指導しましたか。		
3,13.	農薬を別の容器へ移し替えないように指導しましたか。		
3.14.	ほ場ごとの土壌条件や品種の早晩生に応じた湛水管理の指導を行いましたか。		
4. 収	穫		
番号	管理点	チェック	
4.1.	コンバインなどの清掃を行い、収穫の際に他品種が混じらないよう指導しましたか。		
4.2.	適期収穫を行うよう指導しましたか(籾の黄化率が80%以上)。		
4.3.	倒伏している圃場や病害虫に犯されている圃場を仕分けして収穫するよう指導しま		

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【JA用】 裏

5. 乾燥・調製

番号	管理点	チェック	
5.1.	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理を行いました か。また、適切な温度管理は行いまいしたか。		
5.2.	乾燥施設への搬入時、現物と伝票の内容は合致していましたか。		-
5.3.	荷受時に原料籾の品種の確認を行いましたか。		
5.4.	乾燥・調製作業の開始前や品種の入れ換え前に設備の清掃を行いましたか。		**
5.5.	乾燥・調製施設の荷受け能力に応じた、過剰な荷受にならないよう原料籾の搬入計画を立て、利用者に周知しましたか。		
5.6.	搬入計画に基づいた計画的な荷受けを行い、速やかに規定(水分17%以下)まで 乾燥しましたか。		
5.7.	倒伏や病害虫による被害籾、高水分籾は仕分けして乾燥・調製しましたか。		***
5.8.	乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行いましたか。		
6. 軟	燥・調製を行う生産者への指導		
番号	管理点	チェック	
6.1.	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理・清掃を行うよう指導しましたか。		•
6,2,	個人で乾燥・調製をする生産者に対し、倒伏や病害虫による被害籾、高水分籾は仕分けして乾燥、調製するよう指導しましたか。		
6.3.	収穫後、すみやかに水分17%以下まで乾燥させるよう指導しましたか。また、適切な温度管理を行うよう指導しましたか。		
6.4.	乾燥・調製作業の記録、帳票の保管を行うよう指導しましたか。		0.00
6.5.	検査までの保管管理は品種ごとに間違が出ないよう、指導しましたか。		
6.6.	検査依頼現物と検査請求内容は間違いありませんでしたか。		100 de 100 d
	1		<u> </u>
7. 全	般		
7. 全 番号	般 管理点	チェック	
_		チェック	
番号	管理点		
番号 7.1.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理		
番号 7.1. 7.2.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理 をするよう指導しましたか。		JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう		JAЖ
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう指導しましたか。		JAЖ
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう 指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。		JA*
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理 をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう 指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。		
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう 指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。		JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7. 7.8.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう 指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。 生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。		JA米 JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7. 7.8. 7.9.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。 生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。		JA米 JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7. 7.8. 7.9. 7.10.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。 生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。 ・生産履歴は期日までに全て回収しましたか。 品質分析・残留農薬・カドミウム分析の検査品を提出しましたか。 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用の指導を行っていますか。 農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険への加入を促していますか。		JA米 JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7. 7.8. 7.9. 7.10.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理 をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう 指導しましたか。 入庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。 生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。 品質分析・残留農薬・カドミウム分析の検査品を提出しましたか。 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用の指 導を行っていますか。		JA米 JA米
番号 7.1. 7.2. 7.3. 7.4. 7.5. 7.6. 7.7. 7.8. 7.9. 7.10. 7.11.	管理点 農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。 稲わらを堆肥や飼料として利用したり、鋤き込んだりして、野焼きせず適正な処理をするよう指導しましたか。 肥料袋や農薬の空き容器などのを適正に廃棄するよう指導しましたか。 肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管するよう指導しましたか。 心庫報告書はすみやかに提出しましたか。 出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。 生産履歴は正しく記入し、記入漏れはないか確認しましたか。 生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までに確認しましたか。 生産履歴は期日までに全て回収しましたか。 品質分析・残留農薬・カドミウム分析の検査品を提出しましたか。 定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用の指導を行っていますか。 農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険への加入を促していますか。 農薬を使用する場合に、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、マスクをかけて作業するように指導を行っていますか。		JA米 JA米

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【JA用】 表

		1
1	麦	Ξ)
	\sim	- /
/		

確認日	年	月	\Box
JA名		10	
部署名		90000	
担当者名			

1. 準備		
番号	管理点	チェック
1.1.	前年度の栽培こよみを見直しましたか。	
1.2.	播種前に出荷契約書は取りまとめましたか。	
1.3.	麦作に関する研修会に開催したり、パンフレット配布などを行い、情報提供を行いましたか。	
1.4.	今年産の栽培こよみ・生産履歴記帳シートを配布しましたか。	
1.5,	栽培こよみに基づいた栽培方法の指導を行いましたか。	
1.6.	5年以内に土壌診断を実施するよう指導しましたか。	
1.7.	土づくり資材や土壌改良資材の施用についての指導や情報提供を行いましたか。	
1.8.	新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が麦栽培に適しているかどうか、 情報提供を行いましたか。	
1.9.	作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗渠は、 排水できる用水路を確保するよう指導しましたか。	
1.10.	トラクターの整備・点検を行うよう指導しましたか。	
2. 営農	旨導	1
番号	管理点	チェック
2.1.	購入種子の保証票を保管するよう指導しましたか。	
2.2.	種子消毒は栽培こよみの使用基準を守るように指導しましたか。	
2.3.	播種機の整備・点検を行うよう指導しましたか。	
2.4.	生育や品種に応じた適切な栽培指導を行いましたか。	
2.5.	肥料は、栽培こよみによる施用基準を参考にして適切に施用するよう指導 しましたか。	
2.6.	防除機械の整備・点検を行うよう指導しましたか。	
2.7.	農薬散布について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容を守る よう指導しましたか。	
2.8.	気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行いましたか。 特に赤かび病の適期防除の徹底に努めましたか。	
2.9.	農薬の飛散低減対策を行うよう指導をしましたか。	
2.10.	農薬散布を行う場合、散布前に近隣住民に周知するよう指導しましたか。	
2.11,	肥料や農薬の管理・保管方法について指導しましたか。	
2.12.	肥料袋や農薬の空き容器、期限切れ農薬などの廃棄物は業者委託するなど 適正に廃棄するよう指導を行いましたか。	
2.13.	肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行うよう指導しましたか。	
2.14.	肥料や農薬の購入伝票を保管するよう指導しましたか。	
3. 収穫		
番号	管理点	チェック
3.1.	収穫前にコンバインなどの整備・点検、故障箇所の修理を行うよう指導しましたか。	
3.2.	コンバインなどの内部清掃を入念に行い、収穫の際に異物が混入しないよう指導しましたか。また、収穫後も清掃を行うよう指導しましたか。	. 🗆

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【JA用】 裏

3. 収穫 (続き)

番号	管理点	チェック
3,3,	銘柄ごとに登熟状況を把握し、生産者に水分確認および適期収穫の指導を しましたか。	
3.4.	赤かび病または穂発芽が発生した麦などは健全な麦とは区分して収穫するよう指導しましたか。	
4. 乾燥	・調製	
番号	管理点	チェック
4.1.	生産履歴記帳シートを期日までに回収し、内容を確認しましたか。	
4.2.	乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理、作業 場の清掃を行いましたか。また、生産者へ指導しましたか。	JA □ 生産者 □
4.3.	搬入計画に基づいた計画的な荷受けを行い、すみやかに水分17%以下まで乾燥しましたか。また、生産者へ指導しましたか。	JA □ 生産者 □
4.4.	乾燥・調製作業は異物混入が発生しないよう適切な作業をしましたか。また、生産者へ指導しましたか。	JA □ 生産者 □
4.5.	赤かび病または穂発芽が発生した麦、高水分麦などは仕分けして乾燥・調製しましたか。また、生産者へ指導しましたか。	JA □ 生産者 □
4.6.	乾燥・調製作業の作業記録の記帳しましたか。また、生産者へ指導しましたか。	JA □ 生産者 □
5. 検査		50 M S M S M S M S M S M S M S M S M S M
番号	管理点	チェック
5.1.	検査員の目揃いを実施し、検査基準の統一を行いましたか。	
5,2,	検査機器の管理・運営は適正に行われましたか。	
5.3.	検査は厳格かつ適正に行われましたか。	
5.4.	検査野帳は適正に記録されていますか。	
5.5.	生産者に検査結果と格付理由を通知しましたか。	
6. 全般		
番号	管理点	チェック
6.1.	農業機械・農器具を使うときは安全に配慮するよう指導していますか。	
6.2.	麦わらを鋤込んだりして、適正に処理するよう指導を行いましたか。	
6.3.	入庫報告書はすみやかに提出しましたか。	
6.4.	出庫管理台帳を記帳し、適切に出庫が行われましたか。	
6.5.	DON分析・品質分析・残留農薬分析の検査品を提出しましたか。	
6.6.	DON分析・品質分析・残留農薬分析の検査結果を確認しましたか。	
6.7.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正 使用の指導を行っていますか。	
6,8.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険への加入を促していま すか。	
6.9.	農薬を使用する場合に、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、 マスクをかけて作業するように指導を行っていますか。	
6.10.	生産者用GAPを全て回収し、チェックしましたか。	
6.11,	GAPの自己審査を年1回以上行っていますか。また、不適合だった項目 を改善しましたか。	
		- S.

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【JA用】

		\
	+=	1
	人立)
/		

確認日」	年	月	B
JA名 .			
部署名 担当者名		47	

表

2	364-1	-
7	進	庙

_ •	VITS OF THE PROPERTY OF THE PR	28 29 30
番号	管理点	チェック
1.1.	播種前に出荷契約書は取りまとめましたか。	
1.2.	生産者に研修会開催やパンフレット配布などを行い、情報提供を行いましたか。	
1.3.	前年度の栽培こよみを見直しましたか。	
1.4.	生産者に今年産の栽培こよみ・生産履歴記帳シートを配布しましたか。	
1,5.	生産者に栽培こよみに基づいた栽培方法の指導を行いましたか。	
1.6.	生産者に対し、土づくり資材や土壌改良資材の施用についての指導や情報提供を行いましたか。	
1.7.	生産者が新しい圃場で栽培を行う場合、その土地が大豆栽培に適しているかどうか、情報提供を行いましたか。	
1,8.	生産者に作付地の団地化等排水条件に留意するとともに、作付地の明渠、暗渠は、排水できる用水路を確保するよう指導しましたか。	
2. 営	豊指導	<i>→</i>

番号	管理点	チェック
2.1.	生産者に購入種子の保証票を保管するよう指導しましたか。	
2.2.	種子消毒は栽培こよみの使用基準を守るように指導しましたか。	
2.3.	生育や品種に応じた適切な栽培指導を行いましたか。	
2.4.	生産者に農薬散布について、栽培こよみや農薬ラベルに記載されている内容を守るよう指導しましたか。	
2,5.	気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行いましたか。	
2,6,	生産者に農薬のドリフト防止の指導は行いましたか。	
2.7.	ヘリ防除をする場合、散布前に近隣住民に周知するよう指導しましたか。	
2.8.	肥料や農薬の管理・保管方法について指導を行いましたか。	
2.9.	肥料袋、農薬の空き容器などを適正に廃棄するよう指導を行いましたか。	

3. 収穫

番号	管理点	チェック
3.1.	収穫前にコンバインなどの整備・点検、故障箇所の修理を行うよう指導しましたか。	
3.2.	コンバインなどの内部清掃を入念に行い、収穫の際に異物がまじらないよう指導 しましたか。	
3.3.	圃場内の雑草や青立ち株を取り除き、収穫するよう指導しましたか。	
3.4.	圃場ごとの収穫適期(子実水分18%以下、茎水分50%以下)を予想し、生産者に適期収穫を指導しましたか。	
3.5.	泥汚損が発生しないよう収穫指導しましたか。	

JAあいち版GAPチェックシート(導入版) 【JA用】 裏

4. 調	制	
番号	管理点	チェック
4.1.	生産履歴記帳シートを期日までに回収し、内容を確認しましたか。	
4.2.	調製作業の開始前に、各設備の整備・点検、故障箇所の修理、作業場の清掃を行いましたか。また、生産者へ指導しましたか。	
4.3.	調製作業前に水分の確認するよう指導しましたか。	
4.4.	調製作業は異物混入が発生しないよう適切な作業を行うよう指導しましたか。	
4.5.	汚損粒等のひどいものは仕分けするよう指導しましたか。	
4.6.	調製作業の作業記録の記帳するよう指導しましたか。	
5. 検	<u>查</u>	<u> </u>
番号	管理点	チェック
5.1.	検査計画を作成し、生産者に通知しましたか。	
5,2.	検査員の目揃いを実施し、検査基準の統一を行いましたか。	
5.3.	検査機器の管理・運営は適正に行われましたか。	
5.4.	検査は厳格かつ適正に行われましたか。	
5.5.	検査野帳は適正に記録されていますか。	
5,6,	生産者に検査結果と格付理由を通知しましたか。	
6. 全		
番号	管理点	チェック
6.1.	収穫後に残った莢や茎を鋤込んだりして、野焼きせず適正に処理するよう指導を 行いましたか。	
6.2.	入庫管理台帳への記帳および入出庫管理は適切に行われましたか。	
6.3.	大豆の残留農薬の検査品を提出しましたか。	
6.4.	大豆の残留農薬の検査結果を確認しましたか。	
6.5.	定期的に、運搬車両・機械・作業用具の点検・修繕を行うとともに、適正使用の 指導を行っていますか。	
6.6.	農作業事故後の農業生産の維持・継続に向けた保険への加入を促していますか。	
6.7.	農薬を使用する場合に、農薬が身体に付着しないような服装等に心がけ、マスク をかけて作業するように指導を行っていますか。	
6.8.	生産者用GAPを全て回収し、チェックしましたか。	
6.9,	GAPの自己審査を年1回以上行っていますか。また、不適合だった項目を改善 しましたか。	

「JAあいち版GAP(米一般農家用)」 兼 「JA米生産者自己点検チェックシート」

提	出	8_	平成	年	月	В
J	Α	名				-
生產	音音 日	5名_				

関連条項	番号	JA米 点検項目	チェック項目	チェック欄
4 %# /#	1-1	0	「JA米」の3つの要件を知っていますか? (種子更新、生産履歴記帳、農産物検査)	
1.準備 	1-2	0	品種が確認された必要種子、又は苗を購入しましたか?	
	2-1	0	種子(苗)の品種を確認し、品種ごとに管理し移植まで間違いはありませんでしたか?	
	2-2		代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田水の流出防止 に努めましたか?	
	2-3		栽培暦を参考にして、適期の施肥・防除に努めましたか?	
2.栽培管理	2-4	0	登録農薬を使用し、ラベルに記載してある使用基準を守って栽培しましたか?	
	2-5	0	どの圃場でどの品種が栽培されているかを把握していますか?	
	2-6	0	出穂期には圃場を巡回し、異品種の混入がないか確認しましたか?	
3.収穫	3-1		銘柄ごとに適期収穫を行いましたか?	
3.玖楼 搬入	3-2	0	コンバインは使用前、品種切替時には清掃しましたか?	
リルダンへ	3-3	0	JA施設へ搬入する時には現物と伝票記載は合致していましたか?	
	4-1	0	乾燥調製機は使用前に整備・点検を行いましたか?また使 用前、品種切替時には清掃しましたか?	
4.乾燥調製	4-2	0	乾燥調製機における品種管理は間違いありませんでした か?	
保管出荷	4-3		検査までの保管管理は品種ごとに間違いありませんでした か?	
	4-4	0	検査依頼現物と検査請求内容は間違いありませんでした か?	
	5-1	0	生産履歴記帳は正しく記帳し記入漏れはないですか?	
5.生産履歴 記帳	5-2	0	生産履歴は出荷前(JA施設搬入前)までにJAで確認されましたか?	
	5-3	0	生産履歴は収穫日を記入し期日までにJAへ提出しましたか?	
6.廃棄物	6-1		肥料袋や農薬の空き容器などの廃棄物は適正に廃棄しましたか?	
	7-1		農薬は盗難にあわないよう、適切に保管していますか?	
7.安全管理	7-2		定期的に農機具、運搬車両の点検・修繕を行い、安全に配 慮して使用していますか?	
	7-3		農薬を使用する場合は、農薬が身体に付着しないような服 装に心がけ、マスクをかけて作業していますか。	

実施した項目は、「チェック欄」に **ノ** を記入して下さい。 JA米生産者の方は、「JA米点検項目」を必ず実施し、チェックをして下さい。 作業委託している項目については、作業者にこのチェックシートを渡して下さい。 「4. 乾燥調製・保管出荷」については個人調製を行っている生産者の方のみ、ご記入下さい。 ** ** **

JAあいち版GAP補助シート(米・麦・大豆) 【ガイドライン対応追加用】

・国が示している「GAPの共通基盤に関するガイドライン」を準拠するための追加項目です。 ・ガイドラインに準拠したGAPに取り組まれる産地は、JAあいち版GAPチェックシート(改定版)に追加しご活用ください。

〇牛産者用に追加する項目

工程	番号	ギールク項目		チェック	
上作	甘万	チェック項目	米	麦	大豆
1	1.14	土壌侵食を軽減するため、ほ場の裸地期間が短くなる栽培計画を立てていますか。			
準備	1.15	たい肥を施用する場合は、外来雑草種子等の殺滅のため、十分にたい肥 化されたものを使用していますか。	П		
3	3.13	農薬使用後に防除器具を洗浄していますか。			
栽培管理	3.14	使い残した散布液は散布むらの調整で使い切るようにしていますか。			
	7.21	ほ場の位置、面積等を記載した台帳を整備していますか。			
	7,22	自ら開発した品種や技術は登録を行うなど、知的財産を保護・活用していますか。			
.7.	7.23	作業工程の工夫など、省エネに努めていますか。			
全般	7.24	肥料・農薬庫の清掃に努めていますか。			
	7.25	作業環境の整理、防護服の着用等、農作業の安全確保に努めていますか。			
	7.26	体調が良くない時は、作業を行わないようにしていますか。			

OJA用へ追加する項目

工程	番号	T		チェック	3
上作	田石	チェック項目	米	麦	大豆
5 乾燥 •調整	5.12	大規模貯蔵施設等の管理者を設置するとともに、適正に管理していますか。			S

J A あいち版GAP サブシート

①. 米・麦・大豆GAP取組み状況報告書 P1

②. 入出庫·在庫管理台帳

P2~

③. 生産履歴記帳シート

 $P4\sim$

④. 内部検査結果報告書

P6~

制 定:平成20年7月

改 定:平成26年2月

米·麦·大豆GAP取組み状況報告書 年産

8月、1月、3月) (提出年3回

町 年 点検年月日:平成 J A名: 担当者名:

Ш

	点核	点検項目	
.	生産者にGAPシートの項目について説明しましたか?	5.	生産者のチェック結果を検証しましたか?
2.	生産者にGAPシートを配布しましたか?(枚数記入)	9.	検証結果を生産者ヘフィードバックしましたか?
ω	GAPシートを回収しましたか?(枚数記入)	7.	検証結果をもとに項目の改善を行いましたか?
4.	JA用GAPシートにチェックをしましたか?		



これから実施予定 チェック 実施した

◇ × ↑ ↑ **○**

実施していない

(3)	7				
目をご記入下さ	9			*	
	2				
検項目 いる項	4				
点検項目 (現時点までに進んでいる項目をご記入下さい)	8	女	女	女	枚
	2	女	女	女	枚
(現)	-				
GAP取組み対象者					
使用様式 国 ※複数、使用している場合は全	て記入				
		*		表	大园
种					

または「JA独自様式」をご記入下さい。 ※項目2、3については枚数も記載してください。 ※項目4、5については、「JA用チェックシート」、「生産者チェックシートの集計表」を添付してください。(8月 麦、1月:米、3月:大豆) ※「使用様式」欄は現在生産者に配布しているGAP様式「旧様式」「導入版」「改定版」「米一般農家用」(一経済連にて作成・提示したJAあいち版GAP)

※「GAP取組み対象者」欄はGAPシートを配布・回収している対象(〇〇部会、〇〇地域オペレーター等)をご記入下さい。

平成 年度 肥料・土壌改良資材在庫管理台帳

No. 数量 購入先 品名 規格 月/日 入庫 出庫 在庫

端数は小数点以下の数値で記入

平成 年度 農薬在庫管理台帳

No. 数量 月/日 購入先 品名 規格 入庫 出庫 在庫

端数は小数点以下の数値で記入

[T-								
通信 欄)は、読	取りのとき記	入必須項目	目です			村記日	E		***************************************	
生産者 1 2 3	4 5 6	6 7 8 4	主産者名			雷託番号	記入してくださ	L)	++	ペツ部会	
住所	名古屋市	5中区	(a	·種名		複数ほ場を	司ーシートで記 責の合計を記り	記入する場合			
作型(数字を記入)					N			計面積			а
			***************************************	空日	白項目 日項目 用種子	です。			作物コード	1	1 0
栽培開始 2011	年 7	月より、作業を	開始しています	No 122 40 B	間	月 日~	月	日シート打	是出日	月	В
1. 作業日誌				(172)		Vanishing Constitution			/L - 494 HO E		
作業名		/	作業期間		T 1.	作業名			作業期間		
		月月	日~	月	B			月	日~	月	<u> </u> B
		月	日~	月	B			月	日~	月	B
		月	日~	月	<u> E</u>			月	日~	月	月月
		月	日~	月	B			月	日~	月	В
a Henry C Et		月	日~	月	日	-		月	日~	月	月
2. 施肥日誌 資材名	基準使用量			2回目		資材名	基準使用量	101		2回目	
貝州石	(10aあたり	1000)1270	-prompt I prompt	0aあたり使			(10aあたり)	10aあたり		10aあたり6	
*************************************	120kg	月 月 0 0		月	B	- The state of the		月		月	B
2		月		月月	」	9		月	1 7 8	月	1
		Daあたりの使	用量を小数	\							
3		点に注意して記 さい。				[10					
	f	<例> 100 と 含は、小数点り しないでくださし	大下は記入	月	. 8			月日		月	B
4		月		Я	B	11		月	B	月	B
5			<u> </u>			12					
		月		月	B			月		月	日
6		月	T 8	月	. В	13		月	- I - I - I - I - I - I - I - I - I - I	月	
						100					J.D
7		月		月	B	14		Я	В	月	B
●手書き欄(リストにない資	* 廿七炔田	まる場合 いて	に設コレデノ・	ドチハ							
●手書さ欄(リストにない質 上段に資材名を記		9 る場合、以下		2回目		上段に資材名を	を記入	108	1	2回目	
工段に負付石で記	LA	10aあたり6		0aあたり使			2 8670	10aあたり		10aあたり(
		月		月				月		月	B
	=7.#L	月	10aあたり	の体田量				月	ТВ	月	-
上記の施肥日誌に記 のない肥料を使った場 手書きで記入します。			小数点に入してくだ	注意して記							
子書さて記入しより。		月月		л				月月	В	月	
].[]						
		月	B	月	B			月	B	月	B
		月		月月	• <u> </u>			月		月	
		H H		I JH				7			
		月	1 日	月				月	B	月	

2 0 1 1 年産 〇〇農協 △△支所

キャベツ 栽培日誌(裏)

2 0 0 - 1

印刷日: 2011年7月11日

農薬名	倍率または 使用量	収穫前 日数	使用回数			1回目	3		2回目		3回目		4回目		5回目	
マラソン乳剤	1000倍	前日	5			月		日	月月	日	月	日	月月	В	月月	В
マフソン孔剤	10001亩	希釈	音率		1 (0 0	0.									
ダイアジノン粒剤5	4~6kg	30	2			月		日	月	B	**月**	日	**月*	* * 🖽	**月*	* 8
ダイアンノン科削5	4~6Kg	使用	量				5 _				* * * * * .	*	* * * *	*.*	* * * *	*.*
						月		日	-	В	月月月	日	月	В	月	В
							Πį				作業日と、希釈					
<u></u>						月		日	率を記入します		ところは希釈倍	日	Я	В	月	Пе
							Ťij		あたりの使用	れてし 量を記	いるところは10a 己入してくださ					
						月		日	い。 <例> 1000	倍なと	、小数点以下を	日	Я	В	Я	E
									書かなくてよい でください。	トところ	らは記入しない			rii i		l.
				<u> </u>	T	月		日	月		月月	日	Я		月	E
		***************************************				1				H						
***************************************				T	17	月	1 J•L	日	月月	· B		日	月月	 	月	E
						л		ш				Н				
				<u>i</u>		<u> </u>										
						月		日	月	日	月月	日	月	B	月月] E
			T			<u> </u>	1 .			- 1						!_
						月		日	月月	日	月月月	日	月月	B	月	LE
											<u> </u>					J.l
	,					月		日	月月	В	月月	日	月	ПВ	月	E
			1				TU									
						月		日	月月	18	Я	日	月		月	E
						T										
				1		月		日	月	· 日	月月月	日	月		月	E
			L			7				H						
				1					月月	· 日	月月	日		1 18	月	E
						月		日	J. J. J.	P	A	Р				F
				, i	<u> </u>	1	-							111		
				<u> </u>		月		日	月月	日	月	B	月	<u> </u> B	月	E
			T			<u> </u>										
						月		日	月	月	月月	日	月月		月月	E
エキセ網/ロットルかい	タサナ は 田 -	+748	A 15		- 27 '	11-7	-/4.4	1.55						1 1		<u> </u>
手書き欄(リストにない)			10	3		\L(2回		上段	に農薬名を記入		10		2回目	
-121-122-121		倍率	または 月	使月	Ħ量 日			月	は使用量日		. BON II CHO!		倍率または 月	使用量 日	倍率または 月	使用量 E
			17		1			,,								
			الع	-1	Ц		1 1	月	В				月	B	月	E
上記の防除日誌	こ記載	希彩	R倍率 b 田 馬	あった	るい	は、	10aあ7 注意し	たり								
のない農薬を使った は、上段に手書きて	:場台 記入し	記力	代して	くだ	が致さい	。 。	-/土思、() ر					Я		月	F
ます。																
			月		· 			月	В				月	В	月	F
						-1-										

JA 管理責任者	部会長	部会 管理責任者

		NO.	
	内部検査	員	

立	成	年度			部会	内部検査結果報告書	(現地検査)
検査日	平成	年	月	日()	検査員名	11
検査農家	名					(ABCなどの記号で現し	してもよい)
検査項目						花 口夕	
<u>項目No.</u> 1						項目名	
2							
3 4							
5	75.LIND	IF XY ID	O.41.70			コたじの怜木塔口を引き	
		作業場	の状況、	語具(/)	保官状态	兄などの検査項目を記入)	
検査結果 項目No.						検査結果	
1							
2							
3							
4							
5							
		犬況を記.					
不適合だ 項目No.	った項目]とその	改善点				
火山110.					1		
							
外部指導所	·助言者	からの意	見				
<u>P</u> ff	禹		比名			意見記入欄	
	6						

JA 管理責任者	部会長	部会 管理責任者

 No	
内部検査員	

平成 年度

部会 内部検査結果報告書 (現地検査まとめ)

十八	十万	2			hΖ	P	N D ALLO R	10米取口首(、現地快自みとめり
検査日	平成	年	月	日())		検査員名	
検査農家	名						ta		
検査項目									
項目No.							項目名		
1									
2									
3									
4									
5									
(農薬保	管状況、	作業場の)状况、	器具の	の保管		況などの	検査項目を記り	
検査結果									
項目No.							検査結果	2	
1									
2									
3									
4									
5									
(各項目	の取組状況	兄傾向を	記入)						
不適合だ 項目No.	つに項目の	こてのの	代普只				改善点		
央口NU.							以口灬		
外部指導 所	助言者が	らの意	見					#0=11	- 00
PIT)		<u> </u>					意見記入	東
		1		1					

JA 管理責任者	部会長	部会 管理責任者

		No.	
P	内部検査!	員	
	1		

平成 年度

部会 内部検査結果報告書(シート検査)

検査日	平成	年	月	A ()	検査員名
検査農家			/ 3			(ABCなどの記号で現してもよい)
検査項目						
項目No.						項目名
2						
3 4						
4 5						
	クシート	の主な	チェッ	ク項目を	を記入)	
検査結果						
_ 項目No.						検査結果
1						
2						
3						
4	1					
4						
5						
124	の取組状法	口た訂っ	3)			
不適合だ 項目No.	つに項目	こてのに	以晋只			改善点
			<u> </u>			
外部指導 所	<u>·助言者か</u> 属	\らの意 	見			意見記入欄
,,,,	n-2		271			/四/ /

JA 管理責任者	部会長	部会 管理責任者

		IVO.
	内部検査員	
100		

平成	年度			部会	内部検査約	洁果報告書	(シート検	(査まとめ)
検査日	平成	年] 🖯	()	検査員名	× .	
検査農家	名							
検査項目					75.D.D	,		
項目No. 1					項目名	1		
2								
3 4								
5								
(チェッ	クシート	の主なチェ	ェック項	目を記	2入)			
検査結果 項目No.					検査結果	₽		
				-1000	人区地	Λ		
1								
2								
3								
4								
5								
(各項目	の取組状況	兄傾向を記	3入)					
不適合だ 項目No.	った項目の	とその改善	善点					
項目No.	-				改善点	Į.		
外部指導	 · 助言者か	らの意見			×			
外部指導 所	属	B	名			意見記	入欄	